

## 日記1

# 架空の請求書

最近架空の請求書が社会問題になっているが、私の所にも来たね。（以下転載。）平成15年7月30日< ご入金のお願い >※これが最後のお願いです。 あなたがご利用の、インターネット・コンテンツ利用料が未だに確認できません。 現在までに何度かお願いの連絡をしましたが、入金の確認が取れません。これ以上入金をお待ちする訳にはいきませんので、来る平成15年7月30日(水)午後2時までにお支払い下さい。 尚、上記期限までに入金を確認できない場合、断固たる処分で臨む所存です。 当社では貴殿の接続ログをデータベースに保存しています。ログから貴殿が接続に利用したプロバイダ・ISP業者を特定できます。プロバイダを突き止めれば、当社提携の調査会社を通じて貴殿の住所、氏名、勤務先を入手。 その上で、改めてご自宅・お勤め先へ料金回収に直接担当者が行くこととなりますので、宜しくお願い致します。 その際には利用代金・延滞利息・督促費用、更に交通費・宿泊費を追加請求させていただきます。（一人1泊1万5千円。交通費はグリーン車・ビジネスクラス使用）また、裁判訴訟・強制執行による差押さえ(給与差押え等)を含めた、あらゆる回収手段を講じます。それでも回収できない場合には、所謂、「回収専門業者」に債権を譲渡します。 このような事態にならぬよう、くれぐれも期限までに入金してください。 尚、これは最終的な通知であり、また、個々のお客様に対応する事は物理的に不可能であるため、メール・お電話でのお問い合わせは受け付けておりません。 下記要領にてお支払い頂ければ、迅速に延滞リストから削除しますので、重ねてご入金お願い致します。【振込先】 三井住友銀行 渋谷駅前支店 普通 2064648 ※(渋谷支店ではなく『渋谷駅前』支店です！) 【入金額】 ￥30,500円【入金期限】 平成15年7月30日(水) 午後2時までに電信扱いでお願いします

◆◆通知人:青龍会(有)料金収納課

◆◆(転載終わり) ちょっと怖くなって地元の消費者センターに電話で相談したら、「またか」と言う感じで、「とにかく無視なさい。本当に取り立てに来

たらその時警察をよびなさい」とのアドバイスだった。あれから1月無視しているが取り立て屋はまだ来ていない。

2003年09月06日 17時48分04秒

## 米朝の危機

新聞に「米朝の危機」という見だしが載っていた。「そうかー、桂米朝さんもなかなかおもしろい落語家やったけど、寄る年波には勝てんゆうことやろなあ。それにしてもまだ死んどらんうちから新聞の第一面に載るほどの人物やったやろか」などと思いながらよくよく新聞を読んでもみると、これが桂米朝のことではなくて、核開発を巡る米国と朝鮮の対立が激化したという記事であった。「なんや、わいもぼけたもんやな」などと思いながらその記事を読んだが、どうも後味が良くない。確かに最近物忘れが激しくなった。家では家族に「アルツ君」などと呼ばれている。わいももう「粗大ごみ」なんやな。今日は一席お粗末でした。

2003年09月04日 19時45分25秒

## 宅間被告

宅間守被告に予想通り死刑判決が下された。責任能力が認められれば当然死刑であろう。私だって幼い命を奪った彼にことさら同情はない。ただ、彼を見ていると、「世の中には2通りの人間がある」と思えてならない。すなわち「好循環する人間」と「悪循環する人間」である。そして一旦後者のドツボにはまると、これから抜け出すのは至難の業である。彼の場合も失業、度重なる離婚ともがけばもがくほどどんどん蟻地獄にはまり、決して抜け出せないと言う絶望の淵にたち、当然の帰結として自暴自棄となり、最悪な形で彼を取り囲む社会・環境に復讐をした。その一方でなぜか分からないが好循環している人たちが居る。私の会社でも「何であの人が」と思われる人が役員になっていく例が多々ある。本人は幸せであろうし、おそらく自分の努力が正当評価された結果と自己満足しているだろう(たいてい薄っぺらな俗人達だが)。でも、これら2種類の人種のどちらにはいるかは実は紙一重では

ないのか。ちょっとした歯車の狂いが大きな結果の差となって現れる。そして悪循環組に落ちてしまった人にはセーフティーネットが用意されていない。しかし社会秩序維持のためにはそう言う人たちに刑罰が下される。私には偶然役員になった人よりも不運にも悪循環に落ちてしまった人の方がよっぽど濃縮した人生を送っているように見える。世の中幸運は1つだが不幸は多種多様である。こういう人たちが刑罰の対象となる前に踏みとどまって新たな一步を踏み出すことが出来れば、厚みを持った人間として相当な業績を残すであろうに。

2003 年 09 月 03 日 19 時 44 分 00 秒

## 積み木くずし

20年前にベストセラーとなり社会現象にまでなった「積み木くずし」の主人公の穂積由香里さんが亡くなられた。心不全とは言え35歳、親への反抗及びその具体的手段としての不摂生を続けての若死にであった。ほとんど事故死あるいは自殺と言って良い。「積み木くずし」が出版されたとき由香里さんは14歳、多感な年頃で親への反抗は既に始まっていた。そして出版、親の方は子供を「全う」に育てることが出来なかったことの懺悔のつもりであっただろうが、娘には自分の恥部に係る無許可での暴露と映り、これが更に反抗に拍車をかけた。警察の世話になったことも1度や2度ではない。私は彼女に同情する。気持ちが分かる気がする。ちょうど「大人のずるさ・きたなさ」が分かる年頃、その全大人に対する反抗が親に対する反抗として凝縮し、その反抗に予定通りの応答をしない親にますます反抗するという悪循環を繰り返していたのであろう。同じ頃、「金属バット殺人事件」という親殺しがあったが、その時の殺した高校生の同級生へのインタビューで、「俺達だって親を恨んでいない奴なんて居ないんじゃないかな。彼は単に実行に移しちゃっただけだよ」という意見があった。その通りだと思う。そう賛成した上で敢えて由香里さんに問いたい。なぜそんな嫌いな親のために自分の命を縮めたのかと。そんなに嫌いな親だったら、無視してお金を勝手に持ち出して家出すべきだったんじゃないのかい。あるいは家庭裁判所に親権停止を申し立てるという高度な技だってあり得たはずだ。なぜそこまで嫌いな奴らと差し違えたのだろうか。思うに彼女の反抗は一面親への甘えの裏返しであったのだろう。親を憎む自分と親に甘える自分の間にあって由香里さんは自

分自身が引きちぎられてしまったのだろう。一番救いようのない難しい境地である。せめて天国では幸せになって下さい。アーメン。

2003年09月02日 19時41分35秒

## サンフランシスコ

先ほど家族で函館に行って来た。函館は坂の多い町だ。坂が多いのは徒歩の住人にとっては難儀かも知れないが、町に一種独特の情緒を与えてくれる。そんな坂の町函館を散策していて、私はかつて訪れたサンフランシスコの町を思い出し、大変懐かしくなった。私どもがサンフランシスコを訪れたのはもう10年以上も前、派遣先のアイダホ州に向かう途中であった。だからその時は余りゆっくり滞在できず、チャイナタウン、リトルトウキョウ、タイムズスクエア、路面電車、フィッシャーマンズワーフと定番コースを廻っただけだったが、もし叶うなら1ヶ月は滞在して、チャリンコで路地から路地へと廻ってみたい。観光客など滅多に行かない裏小路にちょっとした瀟洒な店やしゃれたレストランなどを発見して、あたかも新しい定理を発見したよううきうきした気持ちになるだろう、そう言う日々を過ごすことができる確信がある。日々新たになれるのだ。ちょっとした発見が常にありそれが喜びになる、サンフランシスコとは私にとってそのような夢の町である。

2003年09月01日 19時03分29秒

## ただでもらうな

「ただでもらうな」と言ってもその理由は「ただより高いものはない」からではない。私がここで言いたいのは、「自分の身銭を切らずにただでもらうと、往々にして獲得したことのありがたみを感じず、結局の所活用せずに終わってしまう」と言うことだ。私は今、週に1回某ゼミに通っているが、1回当たり数千円の謝礼を取られる。数ヶ月分を積み重ねれば家族旅行が出来ようと言う額だ。でもその謝礼を払っているからこそ録音してきて家で聞き返し、必死で覚えようとする。つまり謝礼を払うことは単独で見れば不利益行為なのだが、総体的に見れば利益行為と言えるのである。加えてお金の使い道も

慎重になり(間違っても教会に多額の献金などしない)、それが時間の使い方  
の慎重さにも繋がる。だから身になることをしようと思ったら先ず身銭を切  
ること、これは鉄則である。今日は説教がましくなってしまった。

2003 年 08 月 31 日 19 時 01 分 34 秒

## 職業観の変遷

不景気で就職もままならないこのご時世、贅沢は言えないが人気職種と言  
えばやはり銀行、新聞、翻訳(通訳)あたりか。でもこの3職業、江戸時代・  
中世はそれぞれ両替商、かわら版屋、通詞などと呼ばれて決して尊敬され  
た職業ではなかった。むしろ、あくどい、ゆすり、便利屋という感じでまともな  
人間がやる職業ではないと思われていた。江戸時代から現代になって、仕  
事の本質が大きく変わったわけではないことから遡ると、これらの職業はか  
つても知的産業であったのだろう。一方当時身分が高いとされた武士階級  
は今はない。強いて言えば武道だが、町の武道ジムの先生が知的職業と認  
識されているとは思えない。宣伝業(例えば電通)はちんどん屋だったし、芸  
能界は河原乞食のやる事であった。要するにどんな種類の職業が尊敬され  
るかは時代によって大きく変化するし、今はさほど高い評価を獲得するに至  
っていない職業にも実は知的要素(の萌芽)があることは十分考えられるの  
だ。だから、その時の流行で狭き門を必死でかき分けて入ろうとする前に、  
本当に自分にあった仕事は何であるかを良く内省した方がいいと思う。そう  
言う自分も規模から言えば大きい方の会社に入ったのだが、仕事の仕組み  
は極めてお役所的で、他の社員とのちょっとした差(例えば1年早く課長に  
なったとか)にしのぎを削っている一流大学卒の群が眼前に広がっている。  
私はかようなちまたの騒ぎを遠い目で見ているが。

2003 年 08 月 30 日 19 時 00 分 48 秒

## 鶴見猫屋敷

自分の話題が多かったので今日は他人の話題を載せよう。私の住んでいる  
マンションは「ペット禁止」なのであるが、私の2階下(すなわち1階)に住ん



でいる熟年夫婦はそれにも関わらず猫20匹と犬2匹を家の中で堂々と飼っている。そして夏場はこの家から出てくる換気扇の空気が超臭い。ほとんど馬小屋のようだ。2階も離れていれば臭いが直接上がってくることはないが、マンションの構造上、私どもはその換気扇の前を通らないと外出できない仕組みになっている。この間数十秒、息を止めて通り過ぎるのだが、階段を上がりつつの息止めはかなり苦しい。私はこの家を「番町皿屋敷」ならぬ「鶴見猫屋敷」と呼んでいる(本人にはもちろん言わないが)。住人は冒コンサル会社の副社長夫妻で、子供も独立して今は2人住まいである。そして飼っている猫は、血統書付きのそれも飼えるのであろうが、実際は近くの公園で拾った野良猫を「かわいそう」と言って飼っている。明白な規約違反なのだから、理事会で問題にして追い出すことも出来ようが、追い出したところでその後中古となったその部屋に入ってくる人種を考えると決して得策とは思えない。実際私たちが前に住んでいたマンションでは、隣家がいわゆる現場作業員で、クーラー一つ据え付けず、自己主張だけは共産党顔負けで、その高校生の子供達が窓を開け放しで夜がしらけるまでギターを弾いたり騒いでいて、私など不眠症になって懲りたことがある。だから、腐っても副社長夫婦を追い出すのは下策というもの。決してやらない。そして「鶴見猫屋敷」と陰口してちょっと憂さを晴らしているのだ。私って小市民だなあ。

2003年08月29日 18時58分24秒

## 女子十二楽坊

久しぶりに素敵な演奏に出会った。中国出身の「女子十二楽坊」というアーティスト集団の演奏だ。演奏は「二胡」と呼ばれる弦楽器を中心に、打楽器、琴、笛を加えた、全部で12名の若い美女からなるもので、中国的なムードたっぷりの音楽に現代風のアレンジを施してある。聞いていると、さながら自分が皇帝になって紫禁城で酒杯を傾けながら聞いているが如きリッチな気分にしてくれる。メンバーは、一人一人のが単独でもリサイタルができるほどの腕であるのに加えて、ルックスもナイスでかつ粒がそろっており、耳とともに目も楽しませてくれる。演奏はいかにも中華音楽と言ったけだるさを漂わせ、エスニック調であるが、ビートも入っている。民族音楽に目のない私は直ちにCDを購入したが(わざわざ函館で)、聞くとところによるとオリコンで1

位になったそうだから、広く大勢の心をつかんでいるようだ。「夢はグラミー賞受賞」とのことだが、決して叶わぬ夢とも思わない。是非一聴を勧める。

2003 年 08 月 28 日 18 時 55 分 43 秒

## 花土だあ！

今週も早いものでもう土曜日だ。会社は週休2日なんだけど、毎週土曜日は某ゼミに通っているので実質週休1日、したがって今日は「花土」と言うことになる(9月からゼミは日曜日になっちゃう)。今日も今から風呂に入ってビールを頂く。ここまでは極めて月並みだ(私とした事がふがない。「変人」の名が泣くぞ！)。ところが今日は違うんだな。ふふふ、来週夏休みを取るんだよ(パパパパンパパーン)。会社の事はすっかり忘れて(これがなんと言っても快感！)、今年は函館に遊びに行っちゃう。函館はこれが3度目くらいかな。家族案内もソラでできちゃう。と言うか、うちで一番身分の低い私は、当然に添乗員兼荷物持ちだ。で、家内と娘に「どこに一番行きたいか」と聞いたら、それぞれ「デパート」と「おもちゃ屋」だと。これじゃあ私がいくら蒔蓄(うんちく)をしても馬の耳に何とやらだね。五稜郭戦争、柄本武揚、土方歳三、更に遡って大黒屋光太夫、高田屋嘉兵衛、間宮林蔵、ロシアの使節ラクスマン、シャクシャインの反乱、日本最初のロシア領事館、ハリストス大聖堂、時代が下ると石川啄木、荻野吟子、樺太千島交換条約、尼港事件、みんな聞きたくないってさ。いっぱい知ってるんだけどなあ、「お金にならないものは要らない」そうだ。まあいいさ、燕雀(えんじゃく)いずくんぞ鴻鵠(こうこく)の志を知らんや、と言う事でともかく行ってまいりまーす(あさってから)。

2003 年 08 月 23 日 20 時 03 分 03 秒

## ラーメン

私は今、冒会社の「技術開発センター」と言うところに所属しているが、ここには小さいながらも社員食堂がある。そして麺類は日替わりで金曜日は味噌ラーメンなので、ネットモの happa さんには「金ラメさん」とあだ名を付けられてしまったが、この味噌ラーメン、結構生けて毎週金曜日の定番、会社に

行く原動力となっている。贅沢を言えばニンニクの絞り汁を入れたいところだが、回りに迷惑だし、そもそも置いてない。ところでこの日替わりは happa さんも気付いていないのだが、水曜日はいつも湯麺なのだ。これも結構いけて、水曜日の楽しみになっている。食べ方はこしょうを山ほどかけて汗をかきかき食えること。なかなかの憂さ晴らしになる。そして食後の30分気持ちよく昼寝ができるのだ。それ以外の曜日はラーメンの味が今一なのでご飯ものになっているが、チキンと魚が多いかな。食欲がないときは山菜そばにする。と言うわけで、工学博士たるものの食べ物にうつつを抜かして良いものかと思うけれども、何せ博士の前に OSSAN なんだから許してくれよな。そのうち野望もやるからね、akko&chii さん。

2003 年 08 月 22 日 18 時 48 分 47 秒

## 無法地帯

私も会社員を始めて早20年、本当の OSSAN だ。この間人並みに色々なことがあったが、一番カルチャーショックを受けたのは新入社員当時現場の工場に配置された時だった。工場という所は職人氣質のたたき上げが多い。氣質が合わない上に我々「学卒」は彼らにとっては目障りだ。色々いじめられたし、驚いたことも多かった。先ず朝出勤してくると彼らの挨拶は決まってその日の朝のう○ちのことだ。それも量が山盛りだとかとぐろを巻いていたとか、リアルに描画する。これをしないと挨拶をしたことにならない。私にはとても出来なかったがこの辺から私は「浮き」始めた。他にも「一体人間は猿から進化しているのかい？」と疑いたくなる事件は山ほどあり、「オリバー君」とか「チンパー君」とか言うあだ名の奴も居た。冬は寮長の「会社にご恩返しをする運動」とやらに付き合わせれて「暖房代を会社に戻入する」とかで寮は真冬でも暖房無しだったりした。夜部屋で休んでいると「友好」と称して強引に麻雀に参加させられたこともあった。でも、私が最も耐えられなかったのは頻繁にある仕事の後の飲み会だった。そもそも昼間に自由を拘束されてその見返りにもらったわずかな給金をくそつまらない宴会で全部吐き出さされてしまうのは、宴会に係る精神的苦痛や時間の無駄はもとより、「この日の私は一体何だったんだ」とむなしくなってくる。本当に現場と言うところは常識の通じない無法地帯だった。そうこうしているうちに堪忍袋の緒が切れそうになって、それではまずいとこの手のつき合いを一切ことをつたら完



全に「浮いた」ね。そしてもうだめだと思った頃やっと本社に転勤させてくれた。まあ、大学に残っていたらこういう経験もせずに済んだんだろうけれど、あそこはあそこでガキの集まりだし、色々あったけれども別世界を覗いたことは、詰まるところ私の肥やしになっているのかも知れない。そう思う今日の頃だ。

2003 年 08 月 21 日 18 時 36 分 30 秒

## マンネリ

最近なぜか生活に張りがない。リズムが無いというか、意外なことが無いというか、わくわくしたことが無いというか、こんな状態は実際、何とも言えずもったえないことである。と言うのも、現在の職場は自宅から30分で着く。極めて近い。その分自由時間が多いわけだ。このメリットももし転勤になったら無くなってしまうのだから、毎日焦るほどにこの時間を有効利用しなければ後々後悔することこの上ないのだが、どうも妙案が浮かばない。決して時間を無駄にしているわけではなく、むしろ朝晩本を読んで知識を習得しているし、ネットも程々にやっているのだが、ある意味この生活パターンが定着しマンネリ化してしまっている。贅沢な悩みであることは百も承知なのだが。例えば世の中の若いお母さん達、子育てと家事を毎日繰り返すのみで私よりもよっぽどマンネリ化していると言うだろう。私はそれに反論できないし反論する資格もない。多分何かこうハッピーエンドで終わる意外な事件でも起これば変化が付くのかも知れないが、それにあまりに時間をとられて自己研鑽の時間が無くなるのをおそれて強く望めない。今時仕事があるだけでもありがたいのだが、不運なことに今あてがわれている仕事に興奮する要素はみじんもない。まあ、ほぼ定時に帰宅できるだけでも十分ありがたいと言ったところだ。クリスチャンたる者日々生かされていることに感謝しなければならない。そのことは分かっているし、自分なりに感謝しているつもりだ。感謝していると平凡なものも光って見えてくる。この理屈も分かっている。だから光ってこないのはおそらくこの面で信仰が足りないのであろう。素直に反省する。少し気が楽になった。ある意味詰めすぎて焦りすぎているのかも知れない。何に焦っているのだろう。ちょっと気分を変えて昨日紹介した akko さんのように官能小説でも書いてみようかな。私の小説は家内曰く「レポート小説で情緒がない」そうだからな。確かに誰からも一度も誉められた、あるい

はぼろくそでも良いから感想をもらったことがないよ。と言いつつ今日も判で押したような一日がくれていく。ともあれ感謝しよう。その上で向上策を考えよう。今日はここまでです。

2003 年 08 月 20 日 18 時 25 分 49 秒

## OSSAN よ野望を...

いろんなホムペをネットサーフィンして思うのだが、どうも私には一般受けする話題が少ない。すぐに「小さな教養」、たまたま興味を共通にする人しか聞きたくないような小難しい話題になってしまう。これでは若い頃女の子にもてなかったのも当然だ(おっさんになってからももちろんもてないが)。今 akko&chii さんが運営する「OSSAN」というサイト

<http://www.geocities.co.jp/Bookend-Ryunosuke/5145/>にはまっている。美人で(見たこと無いが)教養高い2人のうら若い独身女性がリレーで本音の日記を書いている。男言葉で「オラオラ」とあおったり、冗談でとぼけたりしてなかなか面白い。このような日記を書けるのも一つの才能というものだろう。早速相互リンクしてもらった。一度会ってみたいものだが、私のようなおっさんが会っても話題もないしもてあますだけだろうからお願いしてない。当人曰く「どこにも出もいる女子社員」だそうだから(本当は1人は研究職、もう1人は総合職、立派なものです)、会社で私と同じ部署にいる女性も普段はくそまじめそうにしながら、実は家に帰るとこのような変わったサイトをジギルとハイドのように運営しているのかなと思ったりする。当人達は「特に美人な訳ではない」と言っているが、このように言われると返って想像をかき立てられて、何となく美化したイメージを持ってしまうものだ。面白い割に客の入りは今一なのもったえない。と言うわけで、今日の日記は彼女たちへの応援と宣伝を兼ねて、「OSSAN よ野望を抱け」のサイトを取り上げてみました。

2003 年 08 月 19 日 18 時 38 分 12 秒

## 虚礼と虚像

今年は暑い日もほとんどないままに暑中見舞いの季節も終わって残暑見舞いの季節になった。と言っても私は暑中見舞いなるものを書いたことがない。虚礼は嫌いだからだ。書かないから当然に来ない。それで良い。それは良いのだが、後4月もするともう年賀状の季節なのだ。今年の分をつい先日書いた気がするのに。年賀状も自分からは書かないのだがそれでも何通かは来る。さすがに来たものには時間の無駄と知りつつ返事を書く。ところでかつて会社で同じ部署だったのにHという奴が居る。この男が親の代から一家そろって全員クリスチャンなのだ。つまりHは生まれながらのクリスチャン、日本では珍しい純粋培養のクリスチャンなのだ。さぞかし良い人間だと思うだろう。確かに悪い人間ではない。でも何か不自然なのだ。表現するのが難しいのだが、魂を抜かれている感じがする。品行も良く、礼儀も正しいし、指示された仕事もこなすのだが、彼と面と向かって「人間を相手にしている」という感じがしないのだ。むしろロボットに近い。変にまでいで応用動作が全くなく、操り人形のようなのだ。癖らしい癖もない。癖がなさ過ぎて何か気色悪い。この世のものではないものを相手にしている感じなのだ。加えて、戒律で自分は酒を飲めなくせに定期的に、ほぼ2月に1回判で押したように、「酒を飲みに行こう」とみんなを誘う。行っても当人はジュースを飲んでいるだけで、話をしても何らの「彼らしさ」も伝わってこないのだが。多分この行動は「この世の人間との接し方」として牧師に指導されたものであろう。そしてその指導をする牧師というのが9割9分世間知らずのとっちゃんぼうやなのだ。要するに操っている方もとんちんかんなのだ。おお、気持ち悪い！ で、何でこの良い子のクリスチャンのHを話題にしたかということ、もう部署が代わって10年以上も経つのに未だに年賀状がやってくるのだ。相変わらずあの魂を抜かれた仮面その物の年賀状が。そして私はHに年賀状を返すのが特に気が重い。「もう来ないでくれよ」と念じつつ返事を書くのだが、1年経つとまた臭いのが又やってくる。これでは日本にキリスト教が根付かないのが良くわかるよ。要するに「あれもだめこれもだめ」のオンパレードで、生き生きしたところ、季節を感じるもの、そう言ったものが一つもないのだ。うちの家内は米国の本場で本物のキリスト教をやってきたので、未だに日本で良い教会を探すという世界一無駄な作業を止めない。本当に懲りないおばさんだ。私も一応クリスチャンだけど、全然さめていて、日本のクリスチャンに友人を求める気はスッカランに無い。でも携挙と再臨は固く信じているから、自分は誰よりもクリスチャンであると自認している。言っておくけど、わいは人間味も生気もたっぷりあるで一。

2003年08月18日 18時14分54秒

## 夏はどこへ行った

最近朝5時半から6時には起きる癖がつきました。早く起きてひと勉強するのも乙なものです(と言いつつこうしてホームペで遊んでいるが)。今日も昨日に引き続きかなりの雨です。天気図を見るとなんとなく秋雨前線という感じになってますね。本当に今年は「春→秋」と言う感じです。明日から暑くなるそうですが、まあせっかくの夏ですから少しくらい暑くないとね。○十の手習いとかできようは某国家試験対策のゼミに行く日です。午後6時までみっちり詰め込まれます。手習いと言うと聞こえがいいんですが、実はリストラ対策だったりして。世の中経済一向に良くなりませんなあ。今年なんか戦前なら東北地方は娘のみ売りが相次ぎこれが五一五事件につながり、犬飼首相暗殺となるのでしょうか。犬飼でもダメだったんですから小泉・竹中で何とかなるわけがありません。ゼミの先生は自称「へっぽこ私大出」だそうですがセンスが有ります。社長業をやっているそうですが、ああいう仕事をするとう事を大づかみにする能力がつくんですかね。私のように筋が通らないと気に入らない人間と対極にあります。対極にあると言うことは教えてもらうことがたくさんあると言うことで良いことなんです。家の奥さんは自称「金本位制」だそうで、さっさと資格をとって金にしろが口癖です。女性ってどうしてああいうセンスになるんでしょうかね。まあ、話がずれてきましたが、これが1つ目の日記です。先はどうなることやら。人生が今ひとつマンネリしているもんですから。昔は過激な Ans.Q 荒らし屋でその筋では極度のブラックユーモアで知られた紋でしたが、苦情が相次いで、今はおとなしいもてないおじさんをやっています。私の素顔が見たいと言う奇特な方は、絶対に幻滅しないと言う約束付きでチラッとお見せしますので、メールで申し込んで下さい。と言うことでした。

2003 年 08 月 16 日 07 時 12 分 10 秒

## 試験入力

ホームページを開設して1年になりますが、日記ツールを使ったことがないので、試しに使ってみました。

2003 年 08 月 14 日 18 時 09 分 22 秒

## 日記2

---

### も一むす。

昨日久しぶりにTVでも一むす。を見た。もう代替わりして、なっちは卒業寸前、益々かわいくなった。主役は4代目から6代目に移っていたが、見ていて代ごとに共通点があるとの認識を得た。加護と辻が判別がつかないほど似ているのは有名だが、石川と吉沢も似ている。5代目も高橋、紺野、新垣、小川の4人は何か似た雰囲気がある。そして6代目の亀井、道重、田中も何か似ているのだ。全員が美人というよりアイドル系であるのだが、そして毎回最終選考はつんく♂が自らやっているはずなのだが、彼の好みも時代とともに変化していくということだろうか。それにしても普通は複数人選ぶときはあえて違ったタイプを選ぶところ、似たタイプを選ぶところが変わっている。それにしても4代目、ずいぶん肥えたね(特に加護)。つんく♂も歌だけじゃなくて彼女らのスタイル管理もやらないと、このままじゃあまずいんじゃないの。

2003 年 10 月 06 日 18 時 24 分 26 秒

### パンゲア

プレートテクトニクス理論によると、大陸は2億6千万年を半周期として分離と合体を繰り返しており、現在は収縮期に折り返したところであるという。そ



のため太平洋は狭くなりつつあり、その結果として太平洋沿岸はプレートの衝突が激しく、環太平洋造山帯を形成している。地震も多い。一方で大西洋はその真ん中の地溝帯から出現するプレートにより広がりつつある。今から2億年くらい後には太平洋は消滅して一つの大きな大陸に合体するという。逆に時代をさかのぼると、今から3億年くらい前には地球上にはパンゲアと呼ばれる大陸と、テチス海から成っていた。ちょうど恐竜が出現した時代である。ところが残念なことにこれより前の姿が再現できない。プレートが沈み込んでしまっただけで証拠が殆ど残っていないのである。理論通りであれば地球誕生以来数回は収縮と分裂を繰り返したはずなのだが。おそらく永遠の謎であろうが、なかなかのロマンでもある。できることなら知ってみたいものだ。

2003 年 10 月 05 日 18 時 23 分 36 秒

## 私益と公益

日本道路公団が進めている環状高速道あきる野インターチェンジの工事に伴う強制立ち退きの国による代執行に対して住民がその中止を求めて東京地裁に訴えを提起していたが、昨日の訴えを認める決定がなされた。この決定は従来と同様の訴訟の判決の常識を覆すもので、決定とはいいながら国も住民も驚いたことだろう。実際環状高速道が開通すれば首都高の混雑も緩和し、大気汚染やヒートアイランドも軽減されるものだけに、判決の趣旨において憲法の居住権を根拠として代執行の停止を認めた今回の決定には私にもわかに肯首しがたい。これは個人生活を尊重する海外の反響も同様であると思う。南ドイツ新聞のヒルシャー記者は、「山手線内に民家が残っていて一方で通勤地獄というのは欧州の感覚では理解できない」と言っていた。今回の裁判所の判断は判決ではなく決定である。つまり口頭弁論が開かれることなく裁判官の裁量のみで出る判断である。代執行が迫っているため早期に判断する必要があったのであろう。この決定は判決が出るまで有効な判断であるが、審決でも不利と見た国は即時抗告した。判決に対しては控訴手続きになるが、決定と命令には抗告という手続きになる。私も国の対応に賛成である。かような私益と公益の対立に対して、裁判諸はより慎重に、衡平の観点から判示すべきではないか。

2003 年 10 月 04 日 18 時 22 分 25 秒

## へたれ

「わいはへたれ(弱虫)やないで」、そう法廷で叫んだ宅間被告が、その予言通り(?)地裁の死刑判決の控訴を弁護団の説得を振り切って取り下げ、加えて、早期に死刑執行を実施する嘆願書を法務大臣に提出した。「さあ、早く殺せ、わいは怖くないで」と言う訳だ。この一連の行動は彼がへたれでないことの証であろうか? 私はそうは思わない。第一に、本当に勇気があるなら他人など巻き合いにせず自分だけで死んだはずだ。第二に、死ぬことよりも逆況下で生き抜く方がよっぽど我慢と勇気がいる。しかし宅間被告はこのどちらも実行しなかった。彼は彼の言う「逆境」の中で、社会への復讐と称して無差別殺人をし、今度は自分の死期を自分で決めようとしている。一言で言えば自分の意地を通してに過ぎないのだ。世の中誰だって自分の思い通りになんか行かない。その思い通りに行かないと言う十字架を背負いつつ我慢して日々を生きているのだ。そしてそう生きることの方がよっぽど勇気がいる。それに比べれば宅間被告の一連の行為は他人の都合や事情を全く無視して強引に自分の意地を通してに過ぎない。これを「へたれ」と呼ばずになんと呼ぼうか。彼はせめて人生の最後に、我慢して生きるという勇気について学ぶべきである。通常死刑判決から執行までは3年ほどかかる。渡辺淳一の本に執行を待つ死刑囚の悲惨で惨めな様子が描かれている。いつお迎えがくるかわからない日々に「わし、もう人間やめましたねん」と言って割れたガラスの上を転がり回る者、人前でオナニーをする者など、そこは修羅場であるという。宅間被告もこの自分の運命を自分で決められない苦しさを味わうべきである。

2003年10月03日 18時19分55秒

## じみ婚式

最近「じみ婚式」が流行だという。不景気も一因であろうがそれよりも既成概念を脱却した個性化の現れと私は見ている。結構な限りである。私の頃は(と言うと年がばれてしまいそうだが)、よっぽどの変わり者か特殊な人生観を持ったもの同士のカップルしかこういうことはなかった。結婚式は文字通り

の「儀式」なのである。無意味と知りながら会場を予約して、お金をつぎ込んで、来たくもない人を無理矢理呼び寄せて強引に席順を作りと、自分のためなのになぜか宴会係である。そして当日、本人たちは着せ替え人形よろしく服をひっかえとっかえ、ありもしないお世辞を垂れ流され、全くのピエロであった。正直言って自分たちのための式ではなく、親親戚のメンツのための式である。そして式場(ホテル)の収入源としての式である。私どもなど常識のない方であったから(今もそうだが)、事情が許せばもちろんじみ婚式を選んだだろう(式すらやらなかったかもしれない)。だがこんなことを切り出そうものなら周りからどんな嫌がらせや妨害をされて結婚自体が危うくなる可能性すらあった。かくして私は、まるでひまし油でも飲む気持ちで式をやり、式が終わって何が良かったと言って「終わって良かった」のみであった。正直清々さばさばした。そう思うと時代はわずかながらも進歩したのかと思う。そういえば昔はひげもパーマも、ましてや茶髪も考えられなかった。こんなしょうもない時代だけど、少しは居心地良くなっている分野もあるんだなあ。

2003 年 10 月 02 日 19 時 27 分 54 秒

## 「インストール」

先の「蹴りたい背中」に続いて綿矢りさのデビュー作「インストール」を読んだ。彼女が高校生の時の作だ。やはり乙女の直感と観察力が鋭く光っている。文学新人賞にふさわしい作品である。主人公のさぼりという日常を離れた気持ち、小学生のマゼガキとの軽妙なやりとり、他人の家でこっそりアルバイトをするスリル感、いちいち納得できる。そして最後の結末、全ての行為は実は親にばれており、言い訳の余地はなかった。しかしその親たちもことさらにとがめるわけでもなく、登場人物全てが結局元の日常に戻っていく。この小説を書くに当たって作者が苦労したのはおそらく結末、つまり落としどころだっただろう。健全な高校生に戻るのか、あるいは戻らないのか、2つのオプションがあったはずだ。だが著者は結局前者を選んだ。「なーんだ」という物足りなさに残るものの、こうすることによって返って一連の出来事をファンタジック、夢の中の出来事と錯覚させるようになっている。あたかも「不思議な国のアリス」のように。次作には彼氏が出来た後更に感性を磨いたこの著者の作品を期待したい。

2003 年 09 月 25 日 18 時 49 分 05 秒

## サンダースの呪い

阪神優勝に関連して「カーネル・サンダースの呪い」というまことしやかな噂があるのをご存じだろうか。18年前に阪神が優勝したときにやはり道頓堀川に飛び込んだ群衆の一部が、KFCの店先に立っている「サンダースおじさん」の人形も川にぶち入れたので、それ以後このおじさんの呪いが祟って阪神が優勝できなかったというのだ。フライドチキン作りの名人であったサンダースおじさんも、よもや自分が遠く離れた国での野球に関連したおどろしい逸話の主人公になるとは夢想だにできなかったことだろう。さぞかし天国で苦笑しているに違いない。一方で庶民のウイットが光っている。これだから世の中は楽しいのだ。かような逸話は宗教界でもある。例えば仏教では一休さんの話、雪舟の逸話、良寛の生き様、「山寺の和尚さん」に歌われる親しみやすさなどである。所がキリスト教にはこのような要素は全くない。強いて言えば聖ニコラス(サンタクロース)があるが、この逸話はそもそもカトリックであって新教のものではない。はっきり言って新教ではこういった庶民の知恵を圧殺している。日曜の説教と言えは基本的に講解説教であって、解釈論か解説、一言で言えば「お勉強」である。それも決まり決まったことを決まり決まったように言うだけで、「カルタ取り」ではないが最初の一言であとは全て分かってしまう。上気したようなウイットのバリエーションを作ろうとしたものなら直ちに異端の烙印が待っている。私もこれまでにいろんな集団に関わってきたが、教会ほど個性のない、能面面の、生気がない集団も見たことがない。会社以下、ほとんどゾンビだ。誰一人として名前を覚えていないし、「心に残る説教」など有ろう筈もない。個人的に若い頃一時ヨガを習ったことがあったが、ここの人たちは一人一人が生き生きしていて今も心の中では愉快的な仲間である。日本のキリスト教業界者たち、猛省しないと後がないよ。

2003年09月24日 18時45分10秒

## 転石苔むさず

「転石苔むさず」、私はこの言葉が大好きである。私の座右の銘と言って良い。あるいは人生の指針とも言うべきか。通常この語は、「転がる石のようなふらふらした人間は、こけすらむさず、結局何もものにならないだめな人生を送る」という戒めの意味で使われる。だが私は、往年の米国のバンド「ローリングストーンズ」ではないが、「一カ所にしがみついたり、昔取った杵柄で平々凡々と判で押したような人生をするよりも、いつも転がって新たな分野にチャレンジする方がよっぽどスリリングで充実した人生だ」の意味に解している。実際私も、会社を辞めたことはないものの、「社内転社」とも言えるものを既に数回やっている。結構幅広く事業をしている会社なので、そのたびに、昔に習得した技術・知見とか、昔に築いた人脈とかを自ら突き放している。正直言って同じ所、同じ事、同じ人たちとある程度以上一緒にいるのには、仮にその場所が人がうらやむほど気楽な場所でも息が詰まって死にそうになるのだ。ところが会社と言うところは「出世コース」というのがあって、これに乗かって一所懸命する人が偉くなる仕組みになっている。このこと自体は、現に存在しており、かつ、必要悪であることは良く知っているし、ことさらに反論もない。そして自分はそのことを知りつつ転々としているのだから、出世に無縁でも何の悔しさも後悔もない。返ってさばさばしたものだ。ところが回りにはこれが変に見えるらしい。中には「あの人は降りた人」と断じてことさらに近寄らない人もいる。こちらだってこういう人種にすり寄られるほど迷惑なことはないからすっきりしたものだが。ただ困っているのが家族の反応である。家族は私と違って世の常識に生きているのだ。なるべくそうでない人を選んだつもりだったが、結果的には完全な成功とは言えない。だからなぜか、会社では結構気楽な人生をしているのだが(居場所にしているという意味ではない、むしろ頑固に定時退社だ)、家でしばしば針のむしろなのだ。ああ、何とかこれから解放されたらなあ。ソクラテスの気持ちが良くわかるよ。

2003年09月19日 19時52分30秒

## フォークダンス

今からもう一世代も前になる。私は大学生の時フォークダンスクラブ(FDC)の部員であった。当時は今のような就職の青田刈りもなく、クラブの部員の現役引退は3年目の春合宿であった。その3年目の春合宿、どこで開催さ



れかもう忘れてしまったが、引退の花道として3年生は1曲ずつ自分の最も思い出になった曲を後輩に土産として指導して行くのが当時の習わしだった。「思い出の曲」と言っても、新入生も含めてかなり上達した時期の指導なので、自ずと難しい曲が選ばれる。有る者はロシアのホパックを指導し、ある者はポーランドのクラコビヤクを指導し、又ある者はメキシコのエル・ハラベ・タパティオを指導した。いずれも運動量の多い大曲である。私は当時イスラエルのFDを最も得意なレパートリーとしていて本(パンフ)も出版するほどに「研究」をしていたが、イスラエルの曲は単純なものが多い。その代わりというわけではないが、私が最後の指導曲に選んだのはスウェーデンの「ダル・ダンス」という曲であった。踊りはスローだがスローな故に返って表現力を要する。そして踊りの複雑さでも第一級の踊りである。下手に踊ると全体の統一が崩れたり、手持ちぶさたになったりする。ステップを間違えるなど花道にもってのほかだ。この踊りはカップルダンスで、相手はNさんというやはり3年生の女性であった。最後にリフトがあるので、減量に努めてきたという。そして本番、私たちはこの花道を、やっている間に互いにほほえみ会ってしまうほどの余裕で、しかし完璧にやり遂げることが出来た。指導が終わったあと後輩達に、「まるで本当のカップルのようだった」と素敵な感想をたくさんもらった。後輩達を感動させることが出来たのだ。私たちも満足だった。ちょうど今流行の「女子十二楽坊」が演奏中に各自のレパートリーを余裕で満足そうに引いているのと同じ気持ちだった。おそらくこの瞬間が私の今までの人生で最高の瞬間だったと思う。やがて合宿が終わるとそのパートナーだった女性は薬剤師の試験を受けるためにクラブにはもう顔を出さなくなった。彼女は高知市の医者の子で、やがては医者を養子にもらうよう運命付けられていることは私も知っていたので、特に驚きもしなかった。そして卒業したあとはもう会ったことがないし、音沙汰も聞かない。でもふとしたことで学生時代を振り返ることがあると、瞑想は回り廻って、最後はこの瞬間の達成感に行き着く。彼女が一時たりとも私のガールフレンドであったことが有るわけではないけれど、なぜかしばしば「彼女は今何をやっているだろう」と思う。つまり、幸せな家庭で、高校生くらいの子供が居てとか思い、勝手に懐かしい気持ちになるのである。

2003年09月18日 19時49分31秒

## 「専門家」

先日タイヤ工場の火災があったが、その時の「専門家」のコメント。(その1)タイヤが炎上してその勢いで粉塵が舞い上がりそれが一定以上の濃度に達すれば粉塵爆発の可能性もあり得る(工学部教授)。(その2)タイヤは不完全燃焼すると一酸化炭素を排出し、その濃度が濃ければ中毒患者が出る可能性もある(医学部教授)。これらコメントを聞いて私は「バカじゃないか」と思った。こんなことはわざわざ専門家とやらに頼まなくたって理工系の学生なら誰でも知っていることだ。いやしくも専門家を自称するのなら、本事象において粉塵爆発が起きる可能性があるのか否か、中毒患者が出るほどの一酸化炭素が放出拡散されるのか否かを定量的に、少なくとも半定量的に述べるべきではないか。それもない彼らのコメントには情報的価値がほとんどない。彼らの言っていることは「雨が降らないと晴れるでしょう」とか「年を取って死んだから老衰です」と言っているのと同じでほとんどトートロジーである。そして彼らの専門性を認めるとしたらそれは人類がほとんど無知であることを認めるのと同義である。もうこの手の「専門家談話」はいい加減に止めて欲しい。

2003 年 09 月 17 日 19 時 48 分 25 秒

## 蹴りたい背中

「愛しいよりも、いじめたいよりも、もっと乱暴な、この 気持ち」と帯にあった、新進作家綿矢りさの第2作目「蹴りたい背中」を読んだ。読んだ理由は、新聞に出ていた作者の写真が自分好みだったという不純な理由であったが、期待は裏切られませんでした。高校生の思春期特有の繊細で敏感で不安定な、文字にならないが確実に存在する、その気持ちをストレートに表してくれた、期待通りすばらしい出来であった。このジャンルでこれほどにストレートに直球が決まった作品は、一世代前の、見延典子による「もう頼杖はつかない」(後に桃井かおり主演で映画化)以来だ。登場人物は主人公のハツ(女子高生)、にな川(男子の同級生)、そしてオリチャン(プロモデル)の3人。ハツとにな川はクラスの「はみ出し者」という以外の何の共通点もない。にな川は自分の世界の閉じこもっており、まだ会っていないプロモデルのオリチャンの隠れファンというオタク的存在である。一方主人公のハツは偶然

から昔に本物のオリチャンと会ったことがある。何気なく会って感動もしなかったハツと、そのオリチャンが自分の存在理由であるにな川。彼らには最後まで恋愛と言えるほどの心理は芽生えなかったであろう。しかし好奇心から2人の心理は絡んでいく、ハツがにな川の世界に巻き込まれる形で。そして最後に2人はオリチャンのライブを一緒に見に行く。思春期の男女2人だが何も起こらない。そして何も起こらないことへのいらだちは、ハツを、好きでもないのににな川をいじめるという心理に導く。実際に背中を蹴ったのは1回だが、酸っぱく蹴りたい気持ちになったのは何回もあった。それは虫けらをいじめる気持ちに似ていた。その気持ちと平常心の間を、ハツの心はゆらゆらと揺れつつはまっていく。そんなストーリーでした。個人的には大変さわやかな読後感でした。ペンネームは作者が高校時代片思いであった相手の名前にヒントを得て付けたと言うが、その男は自分の身の程知らずの幸運に気付いていただろうか。

2003 年 09 月 12 日 18 時 26 分 12 秒

## 中秋の名月

夏が終わって秋になったが今ひとつ蒸し暑い。特に今年は冷夏だったので、今の蒸し暑さがことのほか身にしみるが、季節の上ではもう「白露」を過ぎて今日は中秋の名月である。天気も良さそうで今日は火星のみならず名月も見られそうだ。蒸し暑いとは言え季節は順調に推移している。その証拠に、最近蝉の鳴き声が聞こえなくなっ、虫の声がこれに代わった。季節は表面上の暑さと裏腹に確実に秋に推移している。そして、蝉、鈴虫と、都会にあってもこれらの季語は生きている。そして季語に託された17文字の俳句の重みをずっしりと感じている。と言うのもここ近年、変に厚い本が多い。特に翻訳物が厚いのに並行する。学問書では「ファインマンの物理学」、「サミュエルソンの経済学」、哲学ものでは「踊る物理学者達」、「ターニングポイント」、「ゲーデル・エッシャー・バッハ」、小説では「ルーツ」、「血族」、みんなただでさえ翻訳で読みにくい上に厚い。ここまで書かないと意図が伝わらないのであろうか。ここまで全部自分を伝えないと気が済まないものであろうか。全く並行する。そしてこれらと対極にあるのが俳句、短歌である。そしてそれら分厚い本よりも、実はよっぽど多くのことを読み方に伝えているのだ。この

点に世の著者達は気付いて欲しい。そして、俳句、短歌の心を持って名月とその季節をめりたいと思う。

2003 年 09 月 11 日 18 時 24 分 11 秒

## 衰退する工学

最近まで「就職に有利」という理由だけで選んだ学生が多かった法学部が法科大学院制度でにわかに活気づいている。薬学も近年の技術やニーズの高度化に対応するために近々6年制に移行することが決まった。医学部は従来から6年制であるし卒業後は高収入・高ステータスである。こうやって最近の世相を反映して高度化しステータス化する学部が増えるのと対照的に、「何もない」学部は現状維持故にじり貧である。その代表が工学部だ。所詮はサラリーマンになるしかない工学部の人気は、今やバイオブームで復活した農学部以下であるという。「もの造りは国の基本だ」工学者達は言う。その通りだと思う。だが、その通りだと賛成した上でこの論理に反論を唱えたい。この論理の根底には「必須なものは栄えるはずだ」という暗黙の前提がある。そんな馬鹿なことが有ろうか。だったら従来の農作業技術だって軍事技術だって人気の的であるはずだろう。必須なものと志望者が多いことは何らの関係もない。ならば工学部はどうすればいいのか。そう聞かれれば私の答えは単純明快だ。「どうすることも出来ないし、どうする必要もない」のである。それが時代の趨勢だからだ、「もの造り」と称しながら公害と廃棄物をまき散らし、不完全な構築物で甚大な被害を人類と地球に与えた工学はじり貧がふさわしい。だが工学にも未来はある。それは自分がかつて吐き出した害や毒を無害化するという生き延び方だ。「タコが自分の足を食って生き延びる」を地でいっているがそれがふさわしい運命というもの、ここは享受したまえ。そして「自分は優秀だ」「自分の能力は最大限に活用したい」と考えている学生諸君、悪いことは言わないから工学部だけは止めなさい。

2003 年 09 月 10 日 18 時 23 分 37 秒

## 言わぬが花

故田中角栄元首相の子飼いで、彼を無罪に誘導するために法務大臣に抜擢された経歴を持つ秦野章氏が最近亡くなった。彼の前歴は警視庁総監であったが、戦前の内務官僚の筋を引いて絶対的なエリートしかなれなかった警視総監に三流私大夜間部卒の彼が就けたのもいわゆる「角筋」、田中角栄の布石だったと言われている。彼は自分の選挙運動にパトカーを使ったとか、角栄無罪に向けて不当な圧力をかけたとか、たたけば山ほどもほこりの出る人物で、自分の選挙時にも当時の政治を「昭和元禄田舎芝居」などと、おそらくプロのコピー屋に作らせたキャッチコピーをマスコミ操作で売り込んだ「名言者」であったが、彼の残した最大の名文句は、おそらくこちらは彼自身の見解の吐露であろう、「政治家に清廉を望むのは魚屋に行って大根を売ってくれと言うようなものだ」というセリフである。実際その通りなのだが、世の中にはその通りだから言ってはいけないことがあるものだ。つまり、言わないことで、あくまでも建前に表向きは徹することで歯止めが掛かるといふ種類の物事だ。その禁じ手を彼はいともたやすく破った。そして世の物議を醸した。だがそれ故には彼は議員を弾劾されなかったし落選もしなかった。その次の選挙で落選したが、それはもはや「角影」も無くなり、角栄をこれ以上擁護する必要が無くなって、従って用済みになったからである。「角栄事件の幕引き＝自分の用済み」は誰よりも本人が理解していたところである。さばさばとした落選であっただろう。私はことさらに右翼ではないし、彼が二流以下の人物であったことも確信している。従って彼に何の感情も抱いておらず、訃報を新聞で読んだときも「あ、そう」程度だったが、彼の世を知り己を知ったさばさばとした割り切った気持ちで、私にはなぜか心地いい。それは多分会社のちょっとした地位に恋々とする情けない「大人」が多い中であって、意味のない「努力」が美德であると子供の頃から教え込まれるこの時代にあって、返って彼の態度に真の「人生観」を私が見いだしているからであろう。

2003 年 09 月 9 日 18 時 21 分 20 秒

## 沖縄



ここ何年か家族旅行と言えば北海道だった私たちは今度は沖縄に行ってみたいと思っている。ちょうど「ゆいレール」も開通したことだし、首里城、ひめゆりの塔、国際通り、名護の水族館などスポットは多い。ただここで困るのが食べ物だ。ヤマトのそれらとはあまりに違いすぎる。ゴーヤーチャンブル、豚の丸焼き、マンゴーの煮付けなどなど、とても食べられそうにない。やっとの思いで寿司屋を見つけると醤油が甘いそう。通ならばむしろこういうものを楽しみに沖縄に行くのだろうが、私たち初心者にとっては越えがたい壁となっている。誰か良い案や気休めがあったら教えてくださいな。

2003 年 09 月 08 日 18 時 57 分 29 秒

## ビール

私はいわゆる「酒飲み」ではないけれど、たまにアルコールを入れると気分転換になる。適量なら薬である。「利き酒」という技があるが、私は日本酒、ウイスキー、ワインについては全く分からないところ、ビールならば多少は分かる。ちなみに宴会嫌いの私は、家で飲むときだけ味が分かる。私にとっての東の正横綱は古典的で「おじさん」と言われそうだが、麒麟の「ラガー」である。その完成度はぴかいちで、長く首位の座を保ったのもなるほどというものだ。こちらが「こく」の代表格とすれば、「キレ」の代表格は西の正横綱、アサヒの「スーパードライ」だ。ややアルコール分が高く無機質的なところが極めて現代的である。続いて、麒麟ラガーに皮一枚で肉薄しているのが札幌の「黒ラベル」である。東の正大関に据えたい。基本的に麒麟ラガーと似ているためこれに隠れ、2番手で損をしているが、これも捨てがたく、麒麟のラガーさえなければ売り上げはずっと上がることだろう。西の正大関にはやや変わったところで「バドワイザー」を挙げたい。やはり無機質系で、時には気分転換に飲みたくなる。アメリカのビールだが、起源はチェコである。ついでに関脇も出しておこうか。東は「サントリー・モルツ」。ずいぶん改良された。シェアは高くないが努力を買いたい。西は「ハイネッケン」。アルコール度が低く半分ジュースなのが難点だが気軽に飲める。小結は東が季節限定の「秋味」、西を「クアーズ」としておこう。最後に番付とは別に、技能賞として地ビールから「銀河高原ビール」、殊勲賞として横須賀は「東郷さんのビール」、そして敢闘賞には銘柄を定めずにビヤガーデンで飲む産地直送生ビールを推挙したい。

## 日記3

### 惑わず天命を知る

「吾(われ)十有五にして学に志す。三十にして立つ。四十にして惑わず。五十にして天命を知る。六十にして耳順(したが)ふ。七十にして心の欲する所に従えどもその矩(のり)を踰(こ)えず。」(論語の為政編より)。東洋の生んだ偉大な哲学者である孔子の人生を語る雄弁な句である。この句を読む度に思う、私は惑わなかっただろうか。人生思い通り、予定通りにはいかないものである。この調子で本当に五十にして天命を知るのか、はなはだ心許ない。東洋の哲学は、西洋哲学のように分解主義でなく、また思弁よりも経験に基づいているので、その分全体的で深い味わいがある。数学をはじめとする理工学もその発想は基本的に分解的・演繹的であり、いわば西洋哲学の手法をそのまま自然や人工物に適用したに過ぎない。こういった手法からは先に引用した孔子の句のような「師」とも呼ぶべき者の知恵ある経験の発露は出てこない。西洋科学はその明快さであらゆる分野に浸透し、世の中の暮らしや物質生産を進歩させてきたが、一方で演繹主義ではどうしてもこぼれ落ちてしまう「知恵」「器量」と言ったものがないがしろにされ、人間疎外や環境汚染を生んできた。私自身馬齢を重ねるに従ってそれなりに「経験」という帰納法を使うための有力な武器を得て、この孔子の言葉を始めとする東洋の知恵に目覚めてきていると自覚している。ただ東洋の知恵は全体的であるが故に、推論の積み重ねでは到達できず、その意味で、勉強しさえすれば万人に理解できるものではない。かつては師から選ばれた弟子のみに巻物で伝授したと言うが、全く肯首できる。肯首した上であえて言いたいのだが、東洋的総合哲学(数学)を広く一般に理解せしめないと、人類は早晩、分析のみが異常に増殖して自滅してしまう。私はこの総合思考の定式化を己が天命と心得ている。

## 権威

昨日はフジコのことを書いたので、今日はその対極にある「権威者」中村Hさんについて書いてみたい。彼女は権威の道まっしぐらである。年から言っても、このまま何かへまをしなければ権威になるであろう。どの分野、どの業界にも権威と言われる人が居る、音楽でも、スポーツでも、学問でもだ。そしてこれらの分野に属する人たちは権威になろうと努力し、しのぎを削る。まず有名な競技会で賞をいくつか取り、教授とか聞こえの良いポジションに着き、名前が知れ渡るようになる。いったんこの好循環が回り始めると、周りの人々は意味もなくへーへーするようになるし、勝手に「〇〇先生のおかげで」などと使ってくれて、自らは普通にやっていたら周りが自然と持ち上げてくれて権威と言う上がりポジションに入れる。要するにこつはこの好循環をうまく回すことである。中村は今この位置にいる。ただし先も言ったように「へまをしなければ」という条件付きである。だからこの「もうじき権威」の位置にいる人たちには共通点がある。第一に姿勢が守りであることだ。人を紹介するという軽い一事を取ってみても、「これが自分の点数にマイナスにならないか」などとすぐに考える。その一方で先輩の権威から頼まれた仕事は、その中身の有無に関係なくすぐにやる。点稼ぎに直結するからだ。だから例えばTV出演とか有名人の葬送など、儲からなくても喜々としてやる。このように後はへまさえしなければ、命さえあれば約束されたような権威の地位であるが、目の上のたんこぶなのがかような権威に引き上げてもらうことなく、勝手に有名になった「一匹狼」である。世話になっていないのだから当然にへーへーもしない。これが権威にとってはとてつもない脅威なのだ。今は情報通信が発達したネットの時代、情報の自由化は選挙や選挙に類するものを限りなく直接民主制にする。その結果旧来のような「ロビー活動」で「権威でござい」という時代ではなくなっている。現に昔だったらピエロかドンキホーテだった小泉が首相になり、ドンの中曽根はその小泉に引導を渡された。中村がこの後も権威の道を歩むのは彼女の勝手だが、その彼女がつかむ権威という地位は、今のそれに比べてとてつもなく小さくなっているだろう。

2003年10月30日 19時15分25秒

## カンパネルラ

ラ・カンパネルラ、この奇妙な名詞に初めて出会ったのは学生時代、宮沢賢治の「銀河鉄道の夜」においてであったと思う。この時はこの本が学校の課題本であったため半ば強制的に読まされたために、それ以上この曲について探索する気は起こらなかった。曲風が分かっていたら文学解釈も違ってきただろうに、今から考えれば惜しいことである。カンパネルラの曲のあのジプシー(ロマーノ)の影響を受けた独特の旋律が初めて印象に残ったのは、おそらく15年ほど前、題名は忘れたが富田靖子と小林稔侍主演のTVにおいてであった。元々民族系、ジプシー系が好きな自分としては、この画像に付随して流れる演奏であっても感動するに十分であった。そして本気で感動して「ああ、こういう曲だったのか」と腑に落ちたのは、最近フジコ・ヘミングの演奏を聴いたときである。私は彼女の演奏のおかげで、リストもショパンもやっと理解できた。古典というものについて私を開眼させてくれたのはフジコである。そして、カンパネルラが実はエチュードだと知ったとき、私は呆然とした。あの名曲が実は練習曲だというのは。確かに指使い等練習になりそうではあるが、まさかエチュードだったとは！練習曲というとバイエルくらいしか知らない私としては、まさに「目から鱗」であった。世の中知らないこと、驚くべきことはまだまだ多い。

2003年10月29日 19時13分37秒

## 酒田

酒田市は山形県の海沿いほぼ中央部、最上川が日本海に注ぐ庄内平野の中心にある。古くから米所として栄え、また、北回り回船の寄港地としても栄えたところである。南東部に羽黒三山、北東部に鳥海山を望み、これら山伏たちの霊場の入り口の役割も果たしてきた。かような土地柄にあるため、古来の男尊女卑の伝統が強く、また、土着の民間信仰の強い土地でもある。この辺の雰囲気は最近リバイバルになった往年の朝ドラ「おしん」の舞台としてドラマでも良く紹介されている。また、放浪作家として有名であった森敦の「月山」にも、この古い体質がこれでもかと言わんばかりに表現されていた。一方で酒田は松尾芭蕉が奥の細道の紀行で訪ねた場所でもあり、「五月雨を集めて速し最上川」と句にも歌われている。彼はこの旅の際、羽黒三

山に詣でて「涼しさやほの三か月の羽黒山」と言う句を詠んだほか、海沿いに北は象潟まで足を延ばしている。更に全国的に有名な民謡の「花笠音頭」の本場でもある。これらには暗い雰囲気はないが、宮田雅之の切り絵にはこの辺りのおどろおどろしい雰囲気が良く出ている。このHPに書いた「純子さん」の出身地でもあるが、彼女のような町育ちにはもはや古い土着の雰囲気はなかった。このようにいろいろな背景を持つ酒田市、実は自分はまだ一度も言ったことがない。機会があったらいつか行くこともあるだろう。

2003年10月28日 19時11分59秒

## 宮沢一飛曹

昭和16年12月に英米両軍と戦闘状態に入った帝国陸海軍は、真珠湾攻撃を鎬矢として破竹の快進撃を行い、開戦半年後には西太平洋の制海権と東南アジアの支配権を握るに至る。かような中で昭和17年7月に起こったのがサンゴ海海戦である。サンゴ海はオーストラリアの東側、ニューギニア島とソロモン諸島に囲まれた海域で、日本本土からはかなり離れており、かようなところの制海権まで手に入れる必要があったかは現代の視点からは疑問であるが、当時としてはインド側の英軍と太平洋側の米軍の連絡を断ち切るという重要な目的、それに時の勢いがあった。この海戦は初の空母対空母の戦いであり、この戦い以降戦闘の主力は砲艦から空母に移るのという海戦史上の節目となる戦いと位置づけられる。この戦いは損害から見るならば互角の引き分けであった。しかし引き分けと言うことは、破竹の勢いを止められたと言うことで、その後の天王山、ミッドウエー海戦の敗北につながっていく。この時の日本の旗艦は空母「瑞鶴」、これに僚艦「翔鶴」随行したが、翔鶴が致命弾3発を浴びながらも撃沈にいたらず、かろうじて面目を保てたのには、生きていたならば「往年の名パイロット」あるいは「撃墜王」と呼ばれたであろう宮沢武男一飛曹の活躍があった。パイロットは今も昔もエリートである。瞬時の判断力、運動神経、反射神経等、大局の判断から細部の周到さまでを要求される職種で、才能のある者だけが選ばれる。ちなみに学生時代の宮沢は機械体操の名手だったという。戦闘中において魚雷をかわしながらのたうち回っていた翔鶴に敵の水雷機が不可避なコースで入ってきた。これを見取った宮沢一飛曹は己が身を省みず水雷艇につっこんで自爆し、命と引き替えに翔鶴を救ったのである。それから約60年、もは



や宮沢を知る者も居ないだろうが、戦闘員として瞬時に勇敢な判断をした宮沢は讃えられるべきである。日本人にもかような勇敢な人が居たのである。生還していたならば戦後の復興にさぞかし尽くしたであろう。この話を私は、かつて宮沢の直の後輩だったという近所のご老人から聞いたのであるが、話が風化していくのを嘆いてここに書き留める次第である。

2003 年 10 月 27 日 19 時 23 分 43 秒

## 経営指標

会社経営と言え一昔前までは胆力、人間力、それに勘力の三力がある者の専売特許とされ、学力よりも山師的勘や人間関係の深さ、清濁併せ飲む心意気と言った寝技の世界であり、ともすればヤーさんと紙一重のおおざっぱな世界であったが、最近は多くの情報を操って瞬時に最適解を出す知的産業に変貌してきた。端的に言えばお座敷での芸者遊びの世界から人間計算機の世界へと変貌してきたのである。喜ばしい限りである。そして情報開示の機運も相まって、主要経営指標と格付け機関による格付けが経営を左右するようになった。主要経営指標として代表的なものを3つあげるとすればそれは、ROA、ROE、そしてFCFであろうROA(Return on Asset)とは「総資産利益率」のことであって、資産をどれだけ有効活用しているかの指標である。一般に装置産業では低く出る傾向があるが、数%~20%位であろうか。もちろん高い方が良い。ROE(Return on Equity)とは「株主資本利益率」であって、株式による資金をどれだけうまく活用しているか野指標である。これも高い方がよいが、大体10%~数十%位ではなかろうか。最後にFCFとは「フリーキャッシュフロー」のことであるが、これは直ちに(短期も含む)自由に動かせる現金がいくらあるかというものである。これは会社の規模によって異なるが、FCFが資産や商い額に比べて小さいと、会社全体としては黒字なのに目先の手形を捌くことができず、いわゆる「黒字倒産」に陥る危険性が大である。このように経営者も投資家も近年著しくインテリジェントになっている。面白い時代である。

2003 年 10 月 26 日 19 時 22 分 02 秒

## ウイスキーの理科実験

世界で一番強いお酒はウオトカとテキーラだと言われている。これらをグラスに分取して火種を近づけると、炎を出して燃える。それほどアルコール分が高いのである。一方ウイスキーは、やはり蒸留酒であるが燃えない。そこまでアルコール分が高くないからである。だが「炎のダンス」を起こさせる方法はある。空になったウイスキーの瓶の中にたばこの煙を一本分ほど吹き込む。そして良く振った上で瓶の口に火種を近づけると、青い炎がゆっくりと、瓶の中を降りていく。暗いところで見るとなかなか美しい。これはたばこの灰(燃え残りの炭素粒: 表面積大)にウイスキーのアルコール分が付着して粉塵燃焼するからである。液体では燃えないが気化あるいは細粒化すると燃焼する良い例である。なお、同じことをウオトカやテキーラ瓶でやらないこと。燃焼を通り越して爆発(デトネーション)する危険があるからである。

2003 年 10 月 25 日 19 時 20 分 48 秒

## きつつき戦法

武田信玄の北信濃侵攻を嫌った上杉謙信は2万弱の兵を率いてその日、武田領の北の砦である海津城を迂回してこれを望む妻女山に陣を構える。この動きを察知した信玄も直ちに動き、2万ほどの兵を率いて謙信に遅れることなく海津城に入り、以後一週間ほど膠着が続く。はやった方が負けるからである。世に有名な川中島の戦いである。この膠着を打開すべく、信玄の軍師の山本勘助は「キツツキ戦法」を献策する。即ち夜陰にまみれて本隊を妻女山の麓に、戦法の基本である鶴翼の陣に敷き、一方で別働隊に妻女山を背面から攻撃させ、奇襲で逃げまとう上杉税を挟み撃ちにするという戦法である。勘助ならではの見事な戦法と言える。ところがこの戦法は上杉勢の察知することとなる。上杉勢は武田勢の陣から炊飯の煙が登っているのを見て察知したという。こちらの眼力も見事である。上杉勢は自ら山を下り、手薄な信玄の本隊めがけて先制攻撃を掛ける。この時に上杉勢が用いたのが「車がかりの陣」である。これは上杉勢の編み出した戦法で、隊列が車のスポークのように次々と襲うことにより恐怖心を与える戦法である。上杉勢の攻撃は功を奏し、信玄は後一步まで追いつめられる。実際別働隊が寸分のところで間に合わなければ信玄は討ち取られていたであろう。戦は結

局上杉勢の退却により引き分けとなったが、実質的に上杉の勝利であることは、上杉勢が幹部は全員帰還したのに対して、武田軍は弟の武田典厩信繁を始め幾多の有力武将を失っていることから明らかである。前書きが長くなったが、勘助の献策も見事なら、これを炊飯の煙で見破った上杉側の軍師の眼力も見事である。だがこちらの軍師については伝えられていない。一般に武田勢には個性あふれる武将が山と居るのに対して、上杉勢からは個性が見えてこない。言ってみれば武田勢は個性重視の三井物産型、上杉勢は組織重視の三菱商事型と言ったところか。軍令にも主の個性が出て、面白い時代ではある。

2003 年 10 月 24 日 07 時 10 分 09 秒

## 弧状列島

現在太平洋が収縮期にあり、その結果太平洋の周りでプレートの沈み込みによる造山・海溝活動、火山活動が活発なことは以前にも述べたが、環太平洋造山帯をよく見ると弧状化しているのが分かる。即ちアラスカのアレウト列島、千島列島、日本列島、沖縄諸島と続き、若干不明瞭になるがフィリピン群島、ニューギニア島、ソロモン諸島と続く。外環するプレートと太平洋プレートのせめぎ合いなら単純に全体として円形を成しても良さそうなものだが、実際はせり出した稜線から成る多角形状をしている。これはなぜであろうか。理由はプレートの厚さが一様でないという点にある。つまりプレートがひとたび沈み込むと、プレートの下面はマントルに接しておりマントルが対流によって均一化する傾向があるため、プレートの沈み込んだ部分は勢いその厚さが薄くなる。そこでその薄さにつけ込んで外側のプレートが押してくるために勢いプレート境界部はせり出して弧状化するのだ。弧状化した部分に火山が多いこと、その弧状の沖には海溝があること、及び沈み込んで島状弧を成していることも同時に説明が付く。さらに細部を見るならば沈み込んだ島状弧の場合、ほぼ等間隔に火山島が並んでいるが、これは一種のレイリー・テラー不安定性による均一性の破れが原因と聞いている。

2003 年 10 月 23 日 07 時 08 分 04 秒

## 学ばれたい方は

関東地方では日曜日に7時半から1コマ、8時半から1コマ、それぞれ「クリスチャンアワー」がある。前者は日本のTV伝道の草分けである中川健一師が司会するもので、彼が企画から資金集めまですべてを取り仕切っている。彼の個性が際だっていて、30分があっという間に過ぎる。極めて生き生きしている。後者は日本各地の教会が資金を少しづつ出し合って成り立っている番組でS牧師が司会をしているが、多数のスポンサーの意見を聞かないといけないためか、あるいは業界の雰囲気そのまま反映しているのか、はっきり言ってのっぺりとしてだらだらした、紋切り型の番組である。うちでは前者を「面白い方」、後者を「つまらない方」と呼んでいる。そしてつまらない方の極め付けが番組の最後のアシスタントの、「聖書についてもっと学びたい方には入門資料を贈呈して差し上げます」というセリフだ。一見丁寧に聞こえるが、その実「聖書は学習・研究するものだ」という自称福音主義者たちの誤った常識を聴衆に押しつけている。ふざけるな、と言いたい。聖書は親しむものであり、なじむものであり、なつくものなのだ。心のゆくままに自分がとけ込んでいくものなのだ。それを堅苦しい研究対象と決めつけ、「分析」して切り刻むことしかない。このような心ない行為がキリスト教を日本に根付かなくしているのに。「聖書を学習」などと言っている奴らに「エホバの証人」を異端であると非難する資格などない。

2003年10月18日 10時23分41秒

## レプトン

レプトンについて質問があったので、ここに記載しておきます。レプトンとは素粒子の一種で「ハドロン」に対抗する総称です。例えば電子とかニュートリノはレプトン、陽子とか中性子はハドロンです。レプトンはギリシア語の"leptos"(軽い)に由来しており、一般に軽い素粒子です(電子は陽子及び中性子よりも3桁軽い)。一般に宇宙は4つの力、即ち電磁力、弱い力、強い力、及び重力より成り立っておりますが、ハドロンと異なりレプトンは強い力(いわゆる核力)には関わらず、その特徴はむしろ弱い力( $\beta$ 崩壊等)に関わることにあります。物質の根本と考えられているクォークの立場からは、ハドロンは3つのクォークにより、またレプトンは2つの逆スピンのクォー

クから成り立っています。これらは素粒子論の立場からは「ゲージ理論」(中国語では「規範場理論」)で説明されています。この理論は「リー群」という数学で表現されますが、電磁力は  $U(1)$ 、弱い力は  $SU(2)$ 、強い力は  $SU(3)$ 、重力は  $GL(3,1)$  と表現されます。このうち前3者については統一は容易ですが、重力についてはまだ統一されていません。これらゲージの観点の重要性を最初に発見したのは Lie-Yang、理論を統一したのは Weinberg-Salam です。いずれもノーベル物理学賞を受賞しています。なお、彼らの理論によると、レプトン及びハドロンの質量が零になると言う困難がありましたが、これは朝永の「繰り込み理論」を経て、南部の「対称性の自発的破れ」論によって解決されました。また、小柴先生の昨年のノーベル賞も、レプトンの一種であるニュートリノを、理論的には予言されていたものの、最初に観測した業績に与えられたものです。

2003 年 10 月 10 日 18 時 23 分 31 秒

## 市益

川崎市は神奈川県北端の東京都に接する部分であり、横浜市と東京都に挟まれて海岸から内陸に長くのびた市である。駅の海側は埋め立て地で工業地帯、駅周りも工業地帯であるが内陸は住宅地と、市勢も内陸側と海側でかなり異なっている。川崎市は道路等のインフラが遅れている。川崎駅の東口、西口ともロータリーこそ整備されたものの幹線道路は狭隘である。そんな川崎に市営地下鉄計画がある。川崎市を縦貫して内陸部と海浜部をつなごうというのである。しかしこの計画には反対も多い。市勢の異なる部分をつなぐニーズの少なさ、既にある南部線との競合、膨大な建設費等である。確かにこの計画は川崎市という行政区にしか目が行っていない。川崎の繁栄を考えるならもっと重要なことは新幹線の新横浜駅との連携線の建設であろう。現在新横浜から川崎まではJR線1回乗り換えで約30分かかる。それに対し横浜環状2号道路及び尻手黒川道路の下に地下鉄を引くとこれが10分程度に短縮されるのだ。ところがこの線を引くとなるとその8割が横浜市に入ってしまう。そして横浜市にはこの線を引くメリットはほとんどない。同様の理由で、横浜地下鉄環状線計画は中山から日吉までで、もう一駅延ばす気になれば新川崎駅(横須賀線)につながるのだが、その計画もない。インフラが自治体単位でしか考えられていない結果である。川崎市



もそのイレギュラーな地形内に拘束されることなく、横浜市との協力も考慮して、もっと将来を見据えた交通計画を立案するべきだと思う。

2003 年 10 月 09 日 18 時 48 分 07 秒

## 天駆ける

ある無名の引退牧師からかつて聞いた話である。その牧師は若い頃ある刑務所の矯悔師をしていた。戦後まもなくの混乱期の頃である。そのとき刑務所である死刑囚に出会った。名前を瀬戸重登と言う。ちょっとしたいざこざから仕事仲間を殺してしまい、死刑囚になったのだという。当時は今と違い年間何十人もの死刑囚が出るほど人々の心はすさんでいた。そしてこの牧師は瀬戸の悔い改めを担当することになった。死刑囚とは思えないほどまていな人間だったとその牧師は述懐している。そして刑務所での聖書勉強に瀬戸は驚くほど真剣に取り組み、その信仰はその牧師も目を見張るほどにまで進んだ。聖書のみ言葉が瀬戸のすさんだ心に、砂に吸い込まれる水のように滲みていったのであろう。瀬戸は見違えるほど素直な人間になった。しかし地上での罪は償わなければならない。瀬戸にも死刑執行の日がやってきた。その執行の時、瀬戸は刑務所長や世話になった刑務官たちに「お世話になりました」と一人一人握手をすると、「主よみもとに近づかん」と勇ましく賛美歌を歌いつつ、自ら絞首台を上がっていった。そしてそのときの刑務所長に「わしは瀬戸の足下にも及ばない」と言わせた。瀬戸は絞首台から天国に天駆けたのである。この話をしてくれた牧師ももう主の御許に旅立って久しく、今は地上にはいない。検索サイトで「瀬戸重登」で調べてみたが1件もヒットしなかった。かようなすばらしい話が風化するのをおそれて、本日の日記に記録する次第である。

2003 年 10 月 08 日 18 時 46 分 34 秒

## 行政不服

猪瀬直樹氏をして「この人がいる限り改革はあり得ない」と言わせた日本道路公団の藤井総裁の辞任・解任劇がにわかに泥沼化してきた。この人は官

僚上がりで、官僚というものは利権にはどん欲でも仕事には無欲なのが通例であるが、この人は「解任＝退職金なし」のリスクを犯しても改革阻止の確信犯を貫こうとしている。一方の小泉内閣から見れば、解散・総選挙を控えて改革の実効を示す必要があり、藤井総裁はちょうど手頃な血祭りの対象だったわけだが、泥沼化すると逆効果にもなりかねない。つまり、石原交通大臣が藤井総裁を解任したとする。解任する権限を石原大臣は持っている。しかしながら戦後の民主主義の体制において、三権分立の原則は、「すべての行政処分は最終的に司法の判断に従わなければならない」という形で貫かれている。従って石原大臣が解任のカードを切れば藤井総裁は行政不服審査法による不服申し立て、続いて行政事件訴訟法による訴えの提起というカードを切り返せるのだ。そしてこうして事件が長期化すれば、結果として藤井総裁の一矢は大きな意義を持つのである。前職が行革担当大臣であった石原氏としては一刻も早く実効を出したいところであろうが、「藤井総裁の言い分を十分に聞いた」と言えるほど時は熟しているだろうか。今後を見守りたい。

2003 年 10 月 07 日 19 時 33 分 54 秒

## 日記4

### フランスの人名

世界史の授業でフランスの近世の著名な人物(哲学者、数学者、芸術家等)の名前を覚えるのに苦労をした方も多いと思うが、実はフランス語の初歩をちょっとかじれば意味が分かるものが結構多い。例えば細菌学者のパスツール、彼の名前は英語に直せば"paster"つまり「牧師」である。数理哲学者のデカルト、彼の場合は"the cards"、カードの事である。やはり哲学者のパスカル、彼の場合は"pass-over"の形容詞、ここでパスオーバーとは旧約聖書をかじった人ならご存じと思うが「過ぎ越の祭り」の事である。数学者のラグランジュ、これは"the garage"、つまり納屋(穀物倉庫)のことである。天才画家のドラクロワ、これは"of the cross"、つまり「十字架の」という意味になる。数学者のドロピタル、彼の場合は"of the hospital"、「病院(ホテル)

の」という意味になる。「ド」がついている人は貴族の血を引いているのであろう。

2003 年 11 月 09 日 19 時 32 分 11 秒

## 太陽

太陽は巨大な核融合装置である。と言っても人類が今実用化を目指しているタイプと異なり、水素4つがまとめてヘリウム1個になる核融合である。地上では太陽のような超高温・超高压な環境は作ることができず、よりマイルドな環境で反応しそうな、トリチウム(3重水素)とデューテリウム(2重水素)との核融合を狙っている。これすらも実用は早くとも50年後と言われているが、ところで太陽で起こっている核融合は、その結果圧力が高まるため、太陽は少しずつ膨張している。この傾向は太陽が燃え尽きるまで続くと言われており、今から数十億年後には地球はおろか全太陽系が太陽に飲み込まれると言われている。太陽は白色わい星(white nova)や中性子星になるほどには質量がないためである。当然にブラックホールにもならない。なお、ブラックホールは何でも飲み込みいっさい吐き出さない宇宙空間内の特異点と思われており、それはほぼ正しいのだが、実際にはブラックホール表面での量子の揺らぎがあって、多少の蒸発現象があると言われている。ただしブラックホールそのものを消滅させるほどではない。

2003 年 11 月 08 日 19 時 31 分 11 秒

## レーザー

レーザーは単波長の光発振装置である。原理は、レーザー媒体となる分子に外から何らかの形でエネルギーを与えることにより準安定励起状態にもっていき、励起状態の方が電子のポピュレーションが高い「逆転状態」を作り、これに「種火」を入れると光の「誘導放出」という現象(量子力学により証明できる)により誘導されてなだれ的に電子が基底状態に落ち、そのエネルギー差に当たる光子群が一気に放出される現象である。レーザーの重要評価項目は注入エネルギーに対する発振エネルギーの比であり、媒質もこの目

的でずいぶんと変わってきた。初期には各種の色素レーザーが用いられた。ルビーレーザー、クロロフィルレーザーなどである。また YAG レーザーが一世を風靡した時代もあった。YAG とは「イットリウム・アルミニウム・ガーネット」のことで半天然物である。一世代前には「エキシマレーザー」がずいぶんとはやった。ネオンやアルゴンのような不活性分子を塩素等の IV 族原子と混ぜて励起させると、分子間力によって結合して、浅いポテンシャルの井戸を作るが、これからの光子放出を狙ったものである。アイデアは面白かったが、発振効率が今一上がらず、今はすたれ気味である。これに代わるように登場してきたのが「半導体励起固体レーザー」で、格段の小型化が図れる上にエネルギー効率も良く、また、ジッター(発振タイミングのずれ)も少ないので有望株である。固体としてはチタン・サファイヤが主に用いられている。テラワット・テーブルトップ・チタンを総称して「Tキューブレーザー」とも呼ばれている。価格も出だした頃は「石1個でキャデラック1台」と言われたものだが、今は軽自動車かバイク並になっている。なお、色素レーザー(液体)もすたれたわけではなく、むしろ欲しい波長の光を出すような媒体の探索に力が注がれ、「ローダミン」などはこの代表例である。ちなみにローダミンはアントラセン状分子にニトロ系の鎖を2本つけたものにフタル酸を結合させた比較的対称性の高い高分子である。これらのレーザーの中には、軍事転用が可能なものもある(守秘義務によりこれ以上は書けないが)。

2003 年 11 月 07 日 19 時 30 分 02 秒

## 血

ほ乳類の血は赤い。ヘモグロビンの赤色だ。ヘモグロ빈はピロール(窒素が1つ入った不飽和5員環)が四角形に並んだ環状構造の中心に鉄イオンが配座した錯体である。この鉄イオンが酸素を運ぶ働きをする。鉄イオンは茶色を呈し、血が赤いのもこの鉄イオンの色が多少の派長変位した色、つまり基本的に鉄の色である。イカのような軟体動物は「ヘモシアニン」と言って、ピロール環に銅が乗った錯体である。銅イオンは青色であり、イカなどの血は薄い青色をしている。更に銅をマグネシウムに変えると「葉緑素(クロロフィル)」になる。つまり光合成を行う葉緑素は「植物の血」と言える。いずれも環状ピロールであるポリフィリンの錯体が基本である。ポリフィリンのように共鳴不飽和環状化合物が4つ(以上)結合した環状化合物は、その中

心に金属を錯体として取り込みやすい性質があるので、ヘモグロビン同様多様な機能を持つ高分子になる。生体の場合は窒素が入るのが普通であるが、合成化学の立場からはベンゼン環(炭素6つの不飽和環状化合物)及びこの修飾物を基本単位にする方が合成しやすい。その代表が「カリックスアレーン」である。金属を中心に取り込むことにより得意な電氣的磁氣的、光学的性質を示し、ナノ素子、有機高分子膜、触媒、脱臭剤、吸着剤、着色剤など多様な用途を持っている。

2003 年 11 月 06 日 19 時 27 分 52 秒

## 予感

私は決して勤が良い方ではなくむしろ悪い方であるが、会議に出る度に「何で自分は今ここにいるんだ」「この連中ともう会うことはないのではないか」「この地域に出張するのはもはや極めて不自然なことだ」と強く感じた時期があった。今から3年ほど前のことであつた。その違和感は単なる違和感を乗り越えて、サルトルの言う「嘔吐」に限りなく近かつた。頭が剪断応力で引きちぎれそうだった。現実がまるで仮装に見えた。こんな状態が1月続いたであろうか、私に部門転換の辞令が出た。私は決して驚かなかつたし、むしろそれまでの嘔吐感に納得して落ち着けた。実に10年ぶりの部門転換であつた。以前からもうこの部門は長すぎると飽き飽きしていたところであつた。それにしても時が移る、あるいは「気が変化する」とはかような見事なものかと、東洋哲学を体験したかのように納得し、かつ感服した。貴重な体験であつた。

2003 年 11 月 05 日 19 時 27 分 11 秒

## 回転寿司

会社と言っても大きさ、やる気、個性、それぞれ様々であるから、社長と一言でいってもその日々の業務は会社によって全然違ふだろう。私は一度もないが、通常のサラリーマンにとって社長になる、あるいはそれに一步でも近づくのが人生の夢であり、日夜そのために励み、また耐え難きを耐えている



ことだろう。技術屋といえども決してその例外ではない。で、岡目八目で思うのだが、今一番熱いのはいわゆる大企業の社長ではなくむしろ中程度の企業の社長ではないか。大企業は動きも鈍いし実際の舵取りは役員・部長クラスがやっていて、社長の実質的な役割と言えは実は全社員の模範となるべく品行方正でいることである。なにか皇族ほど窮屈でつまらない気がする。それに対し中企業はオーナー社長である場合が多く、自分の舵取り次第で会社をどっちにでも持っていくことができる。アジアに進出したければすればいいし、ベンチャーのアイデアを買いいたいならそう決断すればいい。例えば回転寿司屋のベルトコンベアシステム。日本の需要の殆どは石川県松任市の2社、「日本クレセント」と「北日本カコー」が競いつつ供給している。たかが回転すし、されど回転すしである。上下2段で回したり、人造大理石に設置して高級感を出したり、新規参入者にビジネスノーハウを教えたり、すし握り機に進出したりとアイデア合戦、まさにあの手この手の攻勢である。極め付きが最新のテクを利用して、皿の裏にICチップを張り付けることにより、レーザーで一瞬に会計してしまうシステム。ニッチな業界などと馬鹿にできないやる気である。恐竜のように薄のろな大企業を見ているよりもよっぽど面白い。おそらく株屋にとってもそうだろう。プロの株屋はこのレベルを狙っていると私は見る。米国では優秀な人ほどスピニアウトして自ら起業するというのに、相変わらず「寄らば大樹」の日本人のみみっちい事よ。

2003年11月04日 19時25分56秒

## 青色発光ダイオードと職務発明

元日亜化学(現在カリフォルニア大学サンタバーバラ校教授)の中村修二氏が世界に先駆けて青色発光ダイオードの製造に成功した話は、その後彼が、発明に対する正当な対価を得ていないとして提訴に踏み切ったことも相まって、なかなかの話題である。まず技術面から見ると、中村氏の成功以前には赤色及び緑色の発光ダイオードは開発されていた。と言うことは、青色さえそろえば色の3原色が揃うことになり、原理的にすべての色が出せることになる状況にあったのである。しかしながら3原色の中では青色が一番難しい。波長が短く、その分エネルギーの高い光子が必要で、とどのつまりはダイオード結晶にバンドギャップ(禁制帯)の大きなものが必要だからである。当時、できるだけ軽い元素で結晶を作った方がバンドギャップが大きくな

る傾向にあることは知られていた。だから当時主流であった「ガリウム・砒素」結晶(III-V 族という)の砒素に代えてリンあるいは窒素を使えばいいと言うアイデアを考えたのは中村さん一人ではなかったはずだ。ただ理論的にはそういっても、実際に結晶を作るのが難しい。この手の薄膜結晶は通例CVD(化学的蒸着法)またはMBE(分子ビームエピタキシー法)で作るのだが、窒素が気体であることから分かるように、なかなかエピタキシャルに(規則正しく)蒸着してくれないのだ。だから会社も反対したのだと思う。しかるに中村さんは会社の命に反して密かに実験を続け、ついに工業生産のめどをつけたのである。この発明の発明者は原始的には中村さん個人に属するのだが、職務発明であるため、会社の勤務規則により、特許を受ける権利は会社へ予約承継された(特許法第35条2項)。この場合会社は然るべき対価を支払わなければならないが(同3項、4項)、中村氏は支払われた対価が「然るべき」とは言えないとして訴えを提起し、現在係争中である。結果は関係者の注目するところだ。ところで訴状によると、中村氏は「会社の命に反して自分で研究開発したのだから、機材の使用はともかくそれ以外に会社の寄与はない」として「然るべき額」の算定をしているようだが、と言うことは、彼は会社の指示に反していたことを自ら認めたわけだから、この間に彼に支払った給与につき、会社側は返還請求の訴えを提起できるということであろうか。

2003 年 11 月 03 日 19 時 24 分 49 秒

## ストレンジネス

この度東京大学名誉教授の西島和彦先生が文化勲章を受章された。受賞の対象となった業績は、素粒子論において、強い相互作用(クォーク閉じこめ)では保存するが弱い相互作用(ベータ崩壊等)では保存しない新しい保存量である「ストレンジネス」を発見したことによる。一般に数学や基礎物理では反応を越えて変化しない量、つまり保存量は、その反応の本質を解明する大きな手がかりとなるので、保存量の発見は重要な意味を持つ。発見は今から40年以上前の、ちょうど素粒子が多数発見されて従来の理論の枠では説明がつかず、何らかの手がかりが必要とされていたときで、西島先生のこの発見は、クォークをカラーやフレーバーで分類してゲージ理論で集約するという素粒子論の近代化に大きく寄与した。西島先生とほぼ同時

にストレンジネスを発見したゲルマンは、その後のクォーク理論への貢献によりノーベル賞を受賞している。その意味で西島先生の今回の文化勲章に受章は当然、むしろ遅すぎたとさえいえる。

2003年11月02日 19時22分47秒

## なぜ平和運動は挫折したか

戦後華やかだった平和運動はじりじりと後退し、今や日の丸・君が代当たり前、皇族は「さま呼び」、海外派兵目の前、教育基本法と憲法の改正も現実的な日程に上がってきた(中曽根氏談)という状況になっている。特に若者の右翼回帰が大きな流れとして存在する、あの過激な日教組に教育を受けた世代なのに。これは一体どういうわけであろうか。思うに戦後の平和運動は「戦争をやめよう」という消極的な目標しか掲げてこなかった。目標が消極的では運動のちからは弱いしかつ目標を失って発散してしまう。それに対し改憲派は目標を改憲に定め、日本人の一過性的性質を利用して着実に手を打ってきた。勝負は明らかである。この件で私が連想するのは、かなり昔の話で恐縮であるが、田中元首相の裁判において、冤罪事件などを積極的に扱い当時正義派の旗手と目されていた敏腕弁護士が、突然に田中側弁護団に加わった「事件」である。当時私はまだ幼かったが、幼いなりに驚きを覚えた。今から思うにその弁護士は、正義派、市民運動家をやっているうちに目標・成果・やりがいと言ったものを見いだせなくなっていたのではないか。そして左翼活動の不毛さを感じるに至り、自分の実力の発揮場所として目標や勝敗の明確な、限りなく灰色な被告人の勝利判決を勝ち取る方にやりがいを見いだしたのではないかと推測している。いずれにしても総括として、平和運動家は「平和というダイナミックなものを実現する」という明確なビジョンを持たなければ先はないと言って良い。

2003年11月01日 19時21分21秒

## なだしお

10年ほど前であるが自衛隊の潜水艦「なだしお」が浮上時に民間船に衝突して転覆させ、死者が出た事件があった。そして当時の瓦防衛庁長官が引責辞任をした。この引責辞任について防衛庁制服組のある幹部が「これぞシビリアンコントロールだ」と評したそうである。平たく言えば防衛庁はかつての帝国陸海軍のような暴走を防ぐために民間人がトップにつく習わしになっているが、これは実は困ったときの切腹要員だというのである。残念ながら一理ある。防衛庁ほどでなくても、現場を預かる専門家・技術者集団と組織全体を統括するが自らは手を汚さない文官・管理者との相克はどの組織でもあることだからである。そして失敗の詰め腹すら技術屋が取らされることも少なくはない。現場組は地べたを這っているのに扱いは虫けら同然、だから切腹くらい統制組がやれと言うことである。歴史を振り返れば、石田三成と加藤清正等朝鮮出兵組との不仲もそもそもは光成が後方支援と称して商人との交渉(つきあい)しかしていなかったことに根っこがあるという。制服組の善哉(よいかな)が聞こえてくるようだ。ここで私の私見を述べるのは控えたいが、かといって私に何か現状打開策があるわけではない。ただ単にかような技術組対統制組の相克は組織が必要悪である限り永遠の必要悪であり続けるであろうと言うことである。

2003年10月31日 19時20分15秒

## 真の師とは

教師、牧師など「師」という言葉が気安く使われてけしからん事であるが、真実の「師」とは、知識を有する人とか訓練を受けた人とか努力した人と言った人間的な意味を越えて、人生の何たるやについて予言できる人、神に限りなく近い人、隠れた真実・核心を言い当てる人の意味に使って頂きたい。古い映画で恐縮であるが「栄光への脱出」という映画がある。これが作られたとき私はまだ生まれていなかったが、学生の頃リバイバルで見た。映画は1948年のイスラエル国独立を描いたもので、原名の"Exodus"は旧約聖書の「出エジプト記」(モーゼが主人公)の事であると知ればこの映画の内容も自ずと推測できよう。この映画の冒頭でユダヤ人の若者が「自分は独立戦争に志願したが家族は殺され、自分も命辛々逃げ出してきた」とラビ(ユダヤ教の師)にうち明ける。このこと事態大変な体験であり、普通の教師、牧師なら、「大変だったね、休みなさい」とか「亡くなった家族のため一緒に祈り

ましよう」などと月並みなことを言うのがせいぜいであろうが、この時のラビは違った。その若者をじっと見つめると、「おまえはまだ全部話していない」と詰問する。実際その通りであって、この若者の一番の苦悩は「捕虜になった際に性的に女性の扱いを受けた」事にあつたのである。そして若者はこのことを告白するとくずおれる。かような眼力を持った人をこそ「師」の言葉を用いてほしい。そして現在の日本になんと師の居ないことか。

2003 年 10 月 30 日 19 時 18 分 54 秒

## 水虫

不浄な話で恐縮であるが、水虫は命取りにはならないものの根治しにくい炎症である。水虫菌はカビの一種であるという。この水虫の対症療法に「酢漬け」という民間療法があるのはあまり知られていない。やり方はこうである。まず市販の酢を数本買ってくる。安価な合成酢で十分だ。これを洗面器に移して火にかけ、風呂より少し熱い程度、やけどの一步手前くらいまで熱する。そしてこの中に水虫の部位(普通は足指)を数分漬けるのである。滲みるほどに痛かゆい快感があれば効いているということである。これを一月ほど続けると水虫のコロニーはかなり小さくなっている。酢は数回まで再使用可能である。下手な薬が塗れば却って広がるのに比べれば抜群の効用である。ただし完治に至るには専門医の処方する薬が必要のようだ。この民間療法を皮膚科の先生に話したところ、「そのような効能は医学的に証明されていません」との返事だったが、科学的に証明されていない真実なんて世の中に山ほどあるからね。この確信は科学技術をやればやるほど深まる。

2003 年 10 月 29 日 19 時 17 分 46 秒

## 羽をもがれたような

この日記を書いている今私のPCは表示部分の故障で修理中である。だから言うわけではなく以前から常々感じているのだが、自分が羽をもがれた鳥のように無力に感じられて仕方がない。家庭は平安だし、特に大病をしていないわけでもなく、リストラにあっているわけでもない。そういう意味では幸せな



一市民であるのだが、なぜかもどかしいのだ。毎日朝起きて、朝の用を済ませたら出勤し、会社で人並みに働き、夜になると帰宅して、入浴した後夕食を食べ、ちょっと休んでから寝る。この繰り返し。典型的な一市民である。ある哲学者に言わせると、「大した才能もない君が毎日不自由なく生きていけるだけでも十分幸せで、そのために何人の手を煩わせていると思っているのか。大過なく生きられる以上にいったい何を望むというのかね」と言うことになる。その通りだと思う。世界には飢えや渴き、戦禍等に苦しむ人々がごまんといるのだ。そう理屈では分かっているがなぜかもどかしい。人間ひとたび生まれいでたからには、何か一つでも「魂がわき上がった」、「やり尽くした」、あるいは「充実した」という瞬間があってほしいと望むのは望外の贅沢であろうか？それが無い私は自分を「羽をもがれた鳥」と感じている。もう地べたを這うのはこの位にし、早く大空を滑空して、地上を大所から俯瞰してみたいものだ。さぞかし世の中が輝いて見えることだろう。こういう気持ちは、かように散文にしても愚痴としか読んでもらえないだろう。詩とか歌にしてみると気持ちよく表現できるのかもしれない。

2003 年 10 月 28 日 19 時 13 分 39 秒

---

## 日記5

---

### Mike's seafood

たしかサンフランシスコ近郊のカーメルだったと思う(ちなみにこの市の市長は最近まで、著名な俳優のチャールトン・ヘストンだった)。表記の商号を有するレストランがあった。アメリカにしては大味でなく、また、鮭にしてもロブスターにしても大衆的な(安い)値段だったので良く行ったものだった。うちの嫁様は典型的なB型でその場限り、英語もあつと言う間にうまくなり帰国するとすぐ忘れたが、この店の名前(多分オーナーがマイケルと言う名前なのだろう)をどうしても「ミケの海産物レストラン」と呼んでしまって笑った。確かに猫の餌ほど安かったし、猫もまたいで通るようなまずい味では決してなか

った。もう詳しい場所も忘れたが、カーメルに行くチャンスがあったらこの「ミケのレストラン」にも寄ってみてね。ちなみに高級感を味わいたいときはサウサリトの何とか(店名忘れたがどれも高級)という店に行っていた。

2003年11月16日 19時22分36秒

## 保険外交員

最近保険の外交員をとんと見かけなくなったが、うちのビルだけであろうか。1年前くらいまでは昼時に常時4人はいてしつこいほどだったのに、今はいても週に2日程度である。うるさくなくて結構なことだが、あの職業自体が斜陽なのであろうか。確かにこの不景気な時代に保険の買い換えと言ったってトータルで条件の悪いものであることは素人にだって想像がつくし、インターネット保険契約もずいぶんと広まってきた。インターネット契約の危ないところは、分厚い約款を自分で勉強しないと、いざという時に隅っこの方からちょっとした条項を取り出してそれを盾に保険額がばっさりと削られることだ。でも外交員を通したからと言って絶対に安全なわけではない。こういった危険が割合少ない証券取引はもう半分以上がネット取引であるという。確かに何も生産せずに「潤滑油」と称して回って歩くだけの多分に宴会系の営業職というものは決して将来性のある職種とは思えない。

2003年11月15日 19時16分25秒

## 護憲21

数年前、社会党が社会民主党に改名したときに、新名称を一般から募ったところ、「護憲21」(当時はまだ20世紀)というのがあり、最終選考まで残ったが、結局選ばれなかった。当時は村山さんが首相をやられた直後でまだ「再度政権を」の意識があったため、多数の支持を考えると「護憲」に拘るのは得策ではないので、党の方針変更の障害にならない名称を選ぼうと、「護憲」の2字を避けたものと推察する。結構いけてる名前だったと思うのだが。そうして数年後の現在のこの低落ぶり。護憲の売り文句すら共産党に取られてしまった感がある。イラクは兵が問題になっている現在、党名に「護憲」

を打ち出しておけば固定支持層からしっかり票を取れたのに、目先の欲に目がくらんで自滅した格好だ。辻本は有罪、土井は疑惑、もう無くなるしかないと思われても仕方がないあの党である。成田友巳が、浅沼稻次郎が、あの世でさぞかし苦い顔をしていることだろう。

2003 年 11 月 14 日 19 時 14 分 49 秒

## サラリーマン道

「がんばって やっと部長の サラリーマン くちびる寒かる 道を説くとは」(お粗末)。猫も杓子もサラリーマン、社長になっても雇われ人のこのご時世、サラリーマンをちょっと長くやったからって道を説くやつが居るんだよな。何を隠そう私もなり立ての頃義理の伯父(某商事会社勤務)に一発やられたけど。やれ「つきあい幅広く」、やれ「本社に知り合いを作れ」、やれ「派閥を見極めろ」、やれ「口を開くときは周りを見てからやれ」等々から始まって、「嫁様も顔が広い方が意外な関係が役に立つ」などと嫁様の種類に至るまで得々と説教されたね。そして私は心の中で、「人生いやな節目が始まるんだなあ」とため息をついたものだった。せこいねえ、サラリーマンが長いからって社長どころか役員になったわけでもないのに「小作人とはどうあるべきか」の「べきだ論」をのたまうとは。自分は間違ってもこの手の人間にだけはなるまいと誓ったよ。「スイスの永世中立が生んだのは鳩時計だけだった」、「オランダが国王から権力を取り上げて民主政治になったとたんにろくな絵画を残さなくなった」、こういう歴史は聞くよね。要するに衆愚だ。そしてサラリーマン道とは詰まるところ衆愚の極みだ。だから現代世界は100年後、200年後から見て、中性暗黒時代のように何も生まなかった不毛な時代と評価されると思うよ。

2003 年 11 月 13 日 19 時 14 分 18 秒

## ケニー野村

野村監督の妻の野村左知代さんの息子であるケニー野村が母親の脱税の手口を自ら国税庁に出向いて詳細に説明した上に、「グッドバイ・マミー」と

いう本まで書いて野村左知代の本当の顔を暴いている。曰く「お前を母親なんて思ったことなど無い。早く大人になって分かれたかった。極悪非道のし放題をしておきながら今更正義感ぶって息子命とか教育論を語るんじゃない。鏡に映った醜い顔を見ろ、それがお前だよ」というわけだ。これは主観的にも客観的にも本当のことだろう。でも従来の日本だったら、たとえこれが本当であろうが、それにも関わらず「この親不孝者め」とののしる頭の固い自称評論家が少なからず居て、ケニーはぼろくそにたたかれるのかと思ったら、以外とそうでもなかった。正直言って安心したね。私も個人的に似たような事情があったから。私がまだ子供の頃、親に言われて「当たり屋」(わざと車にぶつかって補償金を取り上げる一種の詐欺)をやらされていた息子が、自分はけがをしているにもかかわらず教唆の罪で逮捕された母親をかばったという話が美談化され、「見ろ、親の恩はああやって返すんだ」と家でも言われて自分の命の危機を感じたものだったが。世の中あれからことさらリベラルになったとも思えないから、ケニーのような有名人なら許されてしまうと言うことなのかな。ここで色々言うのはやめておくけれど、母子愛に名を借りた子供の搾取は絶対にあると思う。

2003 年 11 月 12 日 19 時 13 分 01 秒

## デリバティブ

デリバティブは「金融派生商品」と訳すが、広く何らかの経済指標(例えば金の価格)を元にしてそれが約定値を越えたときにのみ事前に約束した利益を受け取ることができるとする権利を売り買いするものである。ここで売り買いの対象が物そのものではなく、その「メタ物」とでも言うべき「権利そのもの」であるため、現に物を所有していなくても、権利を所有していることを担保とした商売をすることができ、レバレッジ(てこ)と呼ばれるが、少ない資産で大金を動かすことができる。そのかわり使い方を一歩間違えば大破産もあり得る、ハイリスク・ハイリターンになりうる「商品」である。比較のお馴染みな物に「オプション」がある。これは約定値を越えたときのみ権利・義務が発生し、他の場合にはなかったことになる金融商品である。オプションには「プット」と「コール」があり、前者は売り渡しオプション、後者は買い取りオプションである。オプション以外の金融商品としては「スワップ」がある。権利の交換に係る金融取引である。デリバティブの種類は多く、今でも新しい金融

商品が開発され続けている。理論的にも金融工学としてかなり整備されてきたが、米国の金融工学専門家が大やけどをした例から分かるように、なかなか理論通りにはいかず、取引の実務ではむしろ感とセンスがものを言っているようである。私個人としては保険程度の使い方を勧める。

2003年11月11日 19時11分58秒

## サリン

7年前にいわゆるサリン事件を引き起こした首謀者格の麻原彰晃こと松本千津夫の口頭弁論と反対尋問が終了して結審した。判決は来年2月末の予定である。麻原(この雅号は「マハラジャ」(サンスクリットで「偉大な王」)のつもりであろう)側は犯行を認めつつも、幹部の暴走によるもので教祖には押さえる力が及ばなかったと主張した。要するに死んだ村井のせいであるという、死人に口無し論法である。公判の間中松本は、時折意味無くつぶやくだけで、反省や改悛の態度は一切見せなかった。解脱して彼岸に渡った自分に対し、地上の権威などが裁くことはできないと言いたげである。要するに自分の我を押し通している。かつて教団の「厚生大臣」であった医師の林被告(終身刑が確定)は彼のことを、「目が不自由なことの理不尽さと多少は見たことの優越感が渾然一体として彼の性格をねじ曲げた」と分析している。おそらくそうであろう。その林にかつて麻原は「頭も育ちも良い」と言い、「おまえの業(カルマ)を直すには金剛密教(バジュラヤーナ)しかない」と言ったそうである。金剛乗は密教の中でももっとも強烈なもので、修行者自身が耐えられずに死に至るほど過激な教え・修行である。かような「外道」をぼっちゃんの林に強制するところにも麻原のねじ曲がった心、嫉妬心が見える。この内部に矛盾を抱えた二律背反で自己を正当化してきた麻原には、人類の終焉が近づいていると週末観を説きつつ同時に最先端の科学を重要視するという二律背反も容易に実行した。そして高度な合成の技術を要するサリンを合成させたわけだが、サリンは農薬に良くあるリン系の化合物でこれにフッ素化物が付加したものであり、神経伝達を司るコリンエステラーゼを麻痺させることにより人体に毒を成す物質である。毒と言ってもふぐ毒のテトロドトキシンは神経回路のナトリウムを阻害する毒、シアン(青酸カリ)や一酸化炭素は血の鉄に結合して酸素の循環を阻害する物質と、毒により人体への働きは違っているものの、いずれも人体に必須な機能のど



れかを阻害する物質である。ここにあげた中ではサリンが毒性が一番強い。

2003 年 11 月 10 日 19 時 11 分 05 秒

## ジオシミュレーター

先ほど海洋科学センターに日本電気(株)が納入した大型並列計算機群の「ジオシミュレータ」は40テラフロップス(每秒40兆回の計算速度)で、米国のサンディエゴの施設を抜いて目下世界最速である。米国の関係者をして「スプートニク以来の科学的ショック」と言わせるほどの計算能力を有している。地球丸ごとをリアルに解析でき、エルニーニョ、地球温暖化等の解明に威力を発揮するだろうと言われている。日本の天気予報も数値予報に代わってからかなり良く当たるようになった。一昔前までは「大人のおもちゃ」とか「金食い虫」とか言われていた計算機も、理論、実験に並ぶ「第3の科学的手法」として認知されるまでに至った。ただ気をつけなければならないのは、かような計算機といえども所詮はツールに過ぎないということである。「計算を1回やった」と言うのは「実験を1回やった」というのと同じで、それだけでは何らの有益な情報ももたらさない。実験と同様に計算も条件を系統的に変えながら何通りか行い、それらの結果から考察により何らかの有益な情報・法則を導き出さない限り「やりっぱなし」に過ぎないのである。幸い計算の場合は実験では計れないほど大量の情報をまとめて一度に取り出すことができる。この利点を有効利用して、「規模を誇る数値解析」から「法則をたくさん生み出す数値解析」に進化して欲しいものだ。その時点でやっと、理論、実験、計算の3つのモードが一体化したと言えるのではないか。

2003 年 11 月 9 日 19 時 09 分 49 秒

## RDF発電

リサイクルエネルギーとしては風力とバイオマスがもっとも有力で、これに太陽光、汚泥、小水力が追いかけている形である。バイオマスは、実は一口で言っても、家庭の生ゴミから家畜の糞尿、伐採木など色々あるのだが、この

中で最先端の形と信じられてきたRDF(Refuse Derived Fuel)が大爆発して消防士を含む死傷者が出る事故を起こした。RDFはバイオマス系ゴミを、場合によっては発酵した上で、圧縮してペレット化した燃料で、この形にすると、燃焼効率が良くなる上に、流通性が海外を含めて飛躍的に向上する。自治体も導入に熱心で、反対運動も少なかったのだが、出鼻をくじかれてしまった。爆発の原因はRDFが吸水性で、水を吸うと発熱する上にメタンガスを放出し、これが何らかの理由で引火したものと推測されているが、ある意味RDFの燃焼効率の良さ、扱い安さが裏目に出た形になっている。バイオマス発電・発熱とは言いながら、所詮はゴミ処理施設の一つ、本質的に迷惑施設の要素を持つので、自治体としては「きれいなゴミ処理」の切り札としていたのにさぞかし当てが外れたことだろう。ただ、だからといって捨ててしまうには惜しい技術であるので(ローテクではあるが)、取り扱い方法に注意する等の対応措置を執って安全に留意しつつ実用化を進めて欲しい。

2003 年 11 月 8 日 19 時 08 分 38 秒

## 交戦権

最近20台30台の若者を中心に右翼回帰が甚だしい。あの槇枝委員長をヘッドとした過激な日教組に教えられた世代であるとはにわかに信じられないほどだ。昭和天皇の死去に際しても若者の記帳が目立ったし、年賀の謁見式にも若者の姿が目立つ。彼らは自らを右翼とは表現しないが、日本も実質的な軍隊を持つべきだと考え、万世一系の天皇をいただくことにいささかの疑念も感じていない。強制的にかり出されて戦死に至らされた者が多いことも忘れて「靖国の英霊に」などと平気で言う。こういう若者の共通点は、戦争が彼らにとって実体験ではないということだ。つまり観念的、バーチャル的に交戦権を暗に認めようとしている。憲法9条改正論者もこの心理を心得ていて、やれ「押しつけ憲法」だの「憲法を自らの手で」などと主張しているが、彼ら改憲論者にとって理屈など感わす力さえあれば内容など実はどうでも良いのだ。そして実際に感わされる若者を見ると、「人間は交戦権を基本的人権として有している」と実質言っているかに見える。つまり戦争を知らないこれら世代は、「我々だって戦争がどんな者か体験する権利がある、一方的に平和を押しつけるな」と言っているように見える。果たして交戦

権は基本的人権であろうか。歴史をひもどくと残念ながらそう思ってしまうほど悲しい現実がそこにある。

2003 年 11 月 7 日 19 時 07 分 47 秒

## 文民派遣

自衛隊のイラク派遣に関して現行内閣は、「自衛隊だけでなく文民も派遣する」と言い出した。電気、水道、インフラ、医療等の専門家が必要だからであるという。理屈はそうであろうが戦争への文民かり出しは太平洋戦争でもあった。そして結構の数の文民が「戦死」している。ここで戦死にカッコをつけたのは、太平洋戦争において文民の死亡はたとえそれが地雷を踏んだためであろうが乗っていた潜水艦の沈没であろうが、公には戦死扱いではないからである。戦死者の数にも入れられていないし、戦後の遺族者補償もほとんど成されていない。扱いはあくまでも会社員の殉職なのである。実質同一を精神とする法曹界であるがこと戦争となると詭弁が通用するのである。現在の日本はかつて来た道を繰り返している。そして会社の中には文民派遣に関して既に協力を表明している会社もある。行きたくなければ会社を辞めれば済むことであるが、この不景気のご時世、再就職もままならないであろう。今日本人民は岐路に立っている。

2003 年 11 月 6 日 19 時 06 分 47 秒

## 紹興酒

私は趣のない人間で、「食べ物などガソリンと同じ」程度の頭しかないが、中国料理は好きである。中国料理を食べる度に「たかが食べ物でもこんなに完成度の高いものを発明する中国人は偉い」と尊敬してしまう。で、食事と言えばアルコールが付き物だ。もしお茶なら「中華料理には茉莉茶(ジャスミン)」であるが、アルコールなら「中華料理には紹興酒」と言いたい。しかも何年か蔵に寝かせて熟成したものがうまい。ところが我が家族は紹興酒が大嫌いだ。元々女衆は酒臭い男が嫌いな上に、紹興酒の独特の強いにおい、あれがとても我慢できないらしい。「自分は良くて周りは迷惑する」とまるで

たばこ扱いだ。一度家を買っていったら、どやされた上に直ちにゴミ箱行きになった。もったいないことだ。あーあ、宴会は嫌いだけど、家族が留守の夜があったら紹興酒でちびちびやろうっと。

2003 年 11 月 5 日 19 時 06 分 05 秒

## 机と椅子

たかが机と椅子、されど机と椅子の悲喜こもごもの物語。担当者:ビニール製の黒い椅子、机は片袖。主任:椅子が肘付きになる。係長:机が両袖になる。課長:椅子が背もたれが深くなり、布張りになる。副部長:椅子に白いシートカバーが付く。部長:席が衝立で囲まれて半個室になり、来客用ソファークセットが付く。平取:担当部署のフロアに個室が与えられる。常務:役員のフロアに個室が与えられ、秘書が付く。副社長:個室が更に広くなり、専用秘書が付く。社長、会長:見たこと無い。どうでも良いけどこういうあほらしいの止めてくれないかな。悲哀を感じるね。ところが普通の家ではご主人様が1ランク上がる度に尾頭付きの鯛でお祝いをするそう。ああ、アホクサ。

2003 年 11 月 4 日 19 時 04 分 33 秒

## 大循環

流体力学はことさらに難しい学問ではない。ナビア・ストークスの式を離散化して数値解析すれば住むだけの問題であり、基本的には対流効果と浮力効果で、数値解析をするまでもなく予想がつく。容器内の流れは対流効果により容器内を循環するように(強制対流に沿って円を描くように)流れ、それに温度差が加わるとその分浮力に結って浮き上がろうとするだけのことである。ところが問題が、太平洋における潮流のいわゆる大循環の問題となると、これに地形の効果や水面における風の効果等が加わり単純にはいかなくなる。観測面からも特に深層流の測定が困難なため、その構造はほとんど理解されていない。もし大循環の構造が解明されればエルニーニョ現象の解明にも大変強力な情報となるところこの現象の予測ができていないと言うことは、大循環に関する情報の少なさを物語っている。話を日本近海に

限定してみよう。大ざっぱに南から黒潮(暖流)が、北から親潮(寒流)が流れ込み、両者が季節にもよるが茨城沖から青森沖で衝突して親潮が黒潮の下に潜り込む構造となっている。潜り込むのは親潮が冷たいためである。そしてこのフロントが衝突する面を「潮目」と言う。潮目には暖流系、寒流系両者の魚が集まるために良い漁場となる。ところで親潮は冷たいにも関わらず、黒潮よりも更に豊富な漁業資源を供給しており、北海道というと海産物となるがこれはなぜであろうか。この秘密は親潮の方が黒潮よりプランクトンの密度が一桁高いことによる。つまり餌が遙かに豊富で食べ尽くされることがないのである。ではなぜ親潮にプランクトン(死骸含む)が多いのであろうか。これは黒潮が冷たいが故に海面に浮上する前の他の流れの下に潜っている間にプランクトンが沈降してくるためと言われている。ただしどの辺りを潜ってくるのかはまだ分かっていない。北米大陸沖という説が有力ではあるが。

2003 年 11 月 3 日 19 時 03 分 34 秒

## 赤十字

赤十字とはフランス人のアンリ・デュナンが始めた国際的中立的医療活動組織であることは誰でも知っているだろう。その位置づけから活動は医療に限らずしばしば外交にも及び、国交のない北朝鮮への外交窓口は実質的に赤十字である。赤十字の紋章は白い正方形の中に赤の十字をあしらった物で、この紋章は「ジュネーブ十字」と呼ばれ、「赤十字社」の呼び名の起源となっている。この赤十字であるが、十字はキリスト教の十字架から来ているため、異なった宗教地域では組織は似たものであるものの異なった紋章及び名称で呼ばれる。まずイスラム教圏、ここでは一般に「赤新月」の紋章を用い、この名称で呼ばれている。新月はイスラムの象徴である。次にイスラエル。ユダヤ教が国教のこの国では赤十字は”Magen David Adom”つまり「ダビデの赤い盾」と呼ばれ、マークも十字ではなく「ダビデの星」(六角星型)である。かように、中立機関である赤十字も地域の特徴が出るのは面白いというか、宗教の根強さが伺える。

2003 年 11 月 2 日 19 時 02 分 23 秒



## 傲慢な商店街

現在私は横浜市に住んでいるが、その昔の一時に横須賀市の田舎に住んでいたことがある。住人のほとんどは昔からの地域住民であった。私は元々否か生まれだが田舎は大嫌いだ。噂はすぐに知れ渡ってプライバシーはない、しつきあいに変にウェットなねちこいものであり、大人たちも見てくれのみのねじ曲がった行動様式を取っていた。だが私が田舎が大嫌いな一番の理由は商店街(街と言うほどでもないが)がごう慢なことである。配達をしないどころか、お釣りを間違えているので注意すると逆切れして食ってかかるクリーニング屋、賞味期限ぎりぎりの売れ残り品を強引に売りつけようとする小売店、「最近来ないねえ」などといやみたらしく言うそば屋、こちらから下手に出ないとわざと配達を遅らすラーメン屋等数えたらきりが無い。季候は良いかもしれないが、本当に住み難かった。家族はともかく私は2度と田舎に住みたくない。「純情商店街」の本場である高円寺にも住んでいたことがあるが、客の側から見ればあんなのうそっぱちだ。

2003 年 11 月 1 日 19 時 01 分 30 秒

## ロバのパラドックス

数学者が好きなパラドックスの一つに、「ロバのパラドックス」と言うのがある。内容は、「ロバの目の前には左右に一山ずつ餌の山がある。ところがこれら2つの餌の山はロバから見て等距離にありかつ餌の内容も全く同質であるため、ロバはどちらの餌の山に行ったらいいのか分からず、ついに飢え死にする」と言うものである。物理学的に見ればロバは「餌ポテンシャル面」の不安定平衡(鞍点)上にあるわけである。私も中学生の頃、このパラドックスに真剣に悩んで、ほとんどノイローゼ状態にあったこともあったが、今から考えると噴飯物である。どちらでも良いから勝手に食べ始めればいいだけのことである。今では私はこのパラドックスを「青二才のパラドックス」と呼んでいる。議論することに意味がないし、強いて意味があるとすれば、「数直線は点の集まりだ」という現代集合論の誤謬を端的に示しているに過ぎない。最近本屋で本を立ち読みしていたら、某大学の先生がこのパラドックスを取り上げていた。いい年をして大学と言うところは相変わらず非生産的な青二才の集まりであるらしい。

2003 年 11 月 1 日 19 時 00 分 33 秒

## 共同不法行為

まず不法行為と違法行為は異なる。法律に違背するのはすべて違法行為であるが、そのすべてが不法行為に当たるわけではない。違法行為であり、かつ損害が発生し、その損害が故意または過失によるものであり、かつ損害と故意または過失の間に相当の因果関係がある場合が不法行為(民法第709条)となる。不法行為が成立する場合は、被害を受けた者は被害を与えた者に損害賠償を請求できる。この不法行為を共同で行った場合は共同不法行為(民法719条)となる。この場合において「共同」とは、同時であること、あるいは関係者の間に謀議があったことを要件とせず、行為に一体かつ連続な関係があれば足りる。従って甲が盗品を乙に売り渡し、乙が盗品として知りつつ販売したような場合は、甲と乙に面識が無くても共同不法行為とされる。共同不法行為の場合における損害賠償の分担は、それぞれの不法行為の程度を元に裁判所等で判断される。

2003 年 11 月 1 日 19 時 59 分 22 秒

## 歴史の法則

歴史に法則はあるか?と言っても、トインビー史観やマルクス史観について講義を垂れようと言うわけではない。数奇の運命をたどったピアニスト、フジコ・ヘミングが奇跡の復活を遂げて早数年、彼女の弾き方はまさに天衣無縫だ。平気で音やリズムをはずす。そしてその外し方が我々素人には返って心地よい。音楽に情感を添えてくれて、「なるほど、こういう曲だったのか」と納得させてくれる。ところがこれが頭の固い権威のお歴々には気に入らない。そして彼女の弾き方を「基本がなっていない」と酷評する。だがフジコはひるまない。「ショパンだってリストだってこういう弾き方をしたのに何で私だけやってはいけないの」と、あっけらかんとしたものだ。そして10年が経過する。人民の力は強く、大衆がフジコを熱狂的に支援し続けた。その結果権威のお歴々もフジコに面と向かって文句を言えなくなった。下手をすると自

分の権威の地位が危なくなるからだ。そこでどうなったかという、「フジコのように何小節かに1回は音やテンポを外さないと、機械的な演奏に過ぎ、情感があるとは言えない」とコンクールの審査員を務める権威が言うようになり、「外すこと」がコンクール入賞の必要条件になってしまった。フジコの起こした革命は、フジコの本意に反してここに固定化されるにいたる。権威の恐ろしさよ。フジコの魂すら抜いてしまうとは。以上の話は人類のもっとも愚かな側面を描いたものであり、これもトインビーに負けず劣らず歴史の法則である。

2003 年 11 月 1 日 18 時 58 分 12 秒

## ライナードライバー

もう会社勤めをしてから何年も経って、もはや転職しようとしてもなかなか希望通りにならない年齢になってしまった。もっとも世の中ある程度見ると、若い頃のはやる気持ちもいつの間にかどこかに消えて無くなり、「仕事なんてなんだって同じさ」という気になってくる。年並みに枯れたと言うべきか、あるいは会社(社会)に飼い慣らされたと言うべきか。いや、そんなことだってどっちだって良い。そんな私だが実は1つだけやってみたい仕事がある。それは長距離ライナートラックの運転手である。2人一組になって、交互に仮眠を取りつつ、夜中も通しでぶっ飛ばし、腹が減ったらドライブインで飯を食い、とにかく指定時間までに目的地に着けばよい。なんと自由で裁量のきく仕事であろうか。加えて景色も移り変わり、ちょっとした土地土地の人情に触れ、無理な追い越しを仕掛けてきた乗用車には幅寄せの嫌がらせをしたりする。もう怖いものなし、天下御免の世界だ。さぞかし快感な事だろう。これだけは死ぬまでに一度やってみたい。断っておくけど、狭い路地をこちょこちょ回る宅急便の運転手はいやだよ

2003 年 11 月 1 日 18 時 56 分 20 秒